

令和元年度

進取の精神 チャレンジプログラム

(地方創生活動部門)

成果報告書



令和元年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門

成果報告書

鹿児島大学 産学・地域共創センター

令和2年3月

はじめに

鹿児島大学は、平成 26 年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業 (COC 事業)」に「火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム」が採択され、同年 10 月に「かごしま COC センター」を設置し、活動を行って参りました。

また、平成 30 年度から、文部科学省国立大学法人機能強化促進費「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業」が採択され、同年 4 月に「産学・地域共創センター」を設置し、かごしま COC センターで行ってきた地域貢献活動を継承するとともに、南九州・南西諸島域の地域課題の一元的収集及び課題解決を進めることで更なる地方創生活動を行っております。

さて、本学は地域貢献を標榜する大学として、学生による県内自治体や企業等と連携した地域貢献活動を支援するため、平成 28 年度に「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム地方創生活動部門」を創設しました。本事業は、鹿児島大学学生憲章（平成 22 年 11 月 15 日制定）の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する諸活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって本学における進取の精神を継承することを目的としており、これまでに 22 団体 188 名の学生がこの事業に取り組んでいます。

プログラムを通じて学生が自主的に県内自治体等と連携し地方創生活動に取り組むことは、地域に根ざした人材を育成するとともに、地域社会の更なる発展と活性化への貢献に寄与するものと考えております。また、活動終了後は学内教職員、学生、自治体職員等が参加する成果発表会を開催し、このような活動が地元企業と学生団体とのマッチングにつながった例もあり、学生の地元就業率向上も期待されるところです。

本報告書は、令和元年度に採択された 5 団体の活動成果をとりまとめました。学生が活動するにあたりまして、多く関係者の皆様にご協力をいただいたことに深く感謝を申し上げます。

これからも地域とともに社会の発展に貢献するとともに、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指して、地域課題への取組をより一層推進して参ります。鹿児島大学の様々な活動につきまして、ご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月

鹿児島大学 南九州・南西諸島域共創機構

産学・地域共創センター長 前田 広人

目 次

1	はじめに	
2	目次	
3	成果発表会開催記事(2月27日開催).....	1
4	成果発表会 開催要領	2
5	成果発表会チラシ	3
6	各団体の活動概要・成果発表資料	
	(1) こんなところに口腔がん!? ～世界一受けたいがん検診～(口腔外科ゼミ)	5
	(2) 錦江町子ども未来作りプロジェクト(KG base)	20
	(3) 三島村を国際観光拠点に! - 鹿大生による魅力発掘と多言語発信 - (薩南諸島勉強会)	35
	(4) 喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム(チーム中名)	48
	(5) 夏休み自由研究お助け隊! ～ウミガメと吹上浜のなかまたち～(鹿児島大学ウミガメ研究会)	56
7	2019 年度 募集チラシ	69
8	2019 年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」募集要項	70
9	鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム実施要項	72
10	国立大学法人鹿児島大学における鹿大「進取の精神」支援基金規則	74
11	鹿児島大学学生憲章	76

令和元年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム

『地方創生活動部門』 成果発表会開催

鹿児島大学は、2月27日（木）に進取の精神チャレンジプログラム「地方創生活動部門」成果発表会を開催しました。本プログラムは、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動に対して支援を行うもので平成25年度から始まった企画です。平成28年度には、学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、新たに「地方創生活動部門」を創設し、今年で4回目を迎えました。

今回は6団体からの応募のうち5団体が採択され、地方創生活動部門を創設して以来、計22団体、総勢188名の学生が地域課題の解決や地域の活性化に主体的に取り組んできました。

成果発表会には38名（自治体関係者4名を含む。）が参加し、学生の取組に対してご質問やご意見をいただくなど、今後の活動展開に向けて励みとなる機会になりました。

審査の結果、最優秀賞は、「KG base」（団体名）が実施したプログラム「錦江町子ども未来作りプロジェクト」に、他の3団体（薩南諸島勉強会、チーム中名、鹿児島大学ウミガメ研究会）には優秀賞が授与されました。

会の最後に学長から、「地域と連携して自主的にプログラムを進められおり、本学の地域貢献を推進する活動として大いに評価します」との講評が述べられました。



写真上：発表風景（最優秀賞「KG base」）

写真下：発表者との記念撮影

令和元年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果発表会 開催要領

1 開催趣旨

今年度の採択プログラムに取り組んだ5団体の学生による成果発表会を開催し、学生の取組を讃えるとともに、次の効果も目的とする。

- ・多くの学生が本プログラムをはじめ各種の地域貢献活動に積極的に参加する機運を醸成する。
- ・発表と審査・表彰、意見交換により、学びをより確かなものとし、他団体の発表を聞くことによる気づきと取組を振り返る機会とする。
- ・自治体関係者など大学関係者以外の意見や評価を受ける機会を設けるとともに、広く地域の方々に本学の取組を周知する機会とする。

2 開催内容

(1) 日 時 令和2年2月27日(木) 14:00~15:45

(2) 場 所 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

(3) 出席者

- ①学長、理事・副学長(企画・社会連携担当)、理事・副学長(教育担当)、学長補佐(社会連携担当)、産学・地域共創センター特任教授2名、研究推進部長
- ②プログラム採択団体(5団体)
- ③本学学生、教職員
- ④県内自治体、企業等

(4) 式次第

- ・開会
- ・開会挨拶(理事・副学長(企画・社会連携担当))
- ・活動成果の発表(1団体15分(発表10分、質疑5分))
- ・意見交換(全体に対する意見、来年度に向けた要望等(10分))
- ・表彰状授与
- ・学長講評
- ・閉会 ※終了後、記念撮影

3. 発表団体(「プログラム名」団体名)

- (1)「こんなところに口腔がん!?~世界一受けたいがん検診~」口腔外科ゼミ
- (2)「錦江町子ども未来作りプロジェクト」KG base(錦江町学生基地)
- (3)「三島村を国際観光拠点に!~鹿大生による魅力発掘と多言語発信~」薩南諸島勉強会
- (4)「喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム」チーム中名
- (5)「夏休み自由研究お助け隊!~ウミガメと吹上浜のなかまたち~」鹿児島大学ウミガメ研究会

4 広報について

- ・プレスリリース:2月上旬予定
- ・自治体及び企業団体への周知は産学・地域共創センターに依頼予定

5 参考

鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラムとは、学生憲章の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムへの支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって本学における進取の精神を継承することを目的として、平成25年度から始まった企画である。

平成28年度からは、学生が県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、「地方創生活動部門」を創設した。



令和元年度 鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム 地方創生活動部門 成果発表会



日時：令和2年2月27日（木）14：00～15：45

会場：鹿児島大学 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

順番	プログラム名	団体名	連携協働先
1	こんなところに口腔がん！？～世界一受けたいがん検診～	口腔外科ゼミ	鹿児島県歯科医師会
2	錦江町子ども未来作りプロジェクト	KG base (錦江町学生基地)	・錦江町まち・ひと・MIRAI 創生協議会 ・産学・地域共創センター 連携推進部門
3	三島村を国際観光拠点に！～鹿大生による魅力発掘と多言語発信～	薩南諸島勉強会	・三島村役場定住促進課 ・産学・地域共創センター 連携推進部門 ・共通教育センター-外国語 教育部門
4	喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム	チーム中名	喜入中名町住民
5	夏休み自由研究お助け隊！～ウミガメと吹上浜のなかまたち～	鹿児島大学ウミガメ研究会	いおワールドかごしま水族館 展示課



※学生の活動支援には、鹿大「進取の精神」支援基金を活用しています。

この基金は、本学が地域活性化の中核的拠点の構築を目指し、また世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に必要な支援を行い、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ことを目的としています。

学生が自分たちで企画・実施した地域貢献プログラムの活動成果を発表します。

どなたでも自由にご参加ください。

参考：

鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラムとは、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムを通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践することによって本学における進取の精神を継承することを目的として、平成25年度から始まった企画である。平成28年度からは県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を支援するため、「地方創生活動部門」を創設した。

【問合先】

鹿児島大学 社会連携課
産学・地域連携係

TEL 099-285-7104

令和元年度 鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門 成果発表会

No	時間 (予定)	グループ名	プログラム名	プログラム概要 (「企画書」抜粋)
1	14時05分～	口腔外科ゼミ	こんなところに口腔がん!? ～世界一受けたいがん検診～	高齢者の多い地域や高度医療機関のない地域に行き、その地域のイベント内で行われる口腔外科のがん検診に併せて、ポスターやパンフレットなどを用いた口腔がんについての説明や広報活動を行うことで、好発年齢、リスクファクター、気を付けるべき口腔内症状を広く普及していく。
2	14時20分～	KG base (錦江町学生基地)	錦江町子ども未来作りプロジェクト	この企画は、地域の高齢化・過疎化を背景に、地域に愛着を持つとともに、自己の将来に夢を描け、さらにそれを実現できる能力を備えた次世代の地域の担い手育成と「錦江町に夢を育む文化と風土を創ること」を目的として、錦江町の小学生と大学生又は他の地域の子どもの交流会、ワークショップ、発表会を行う。
3	14時35分～	薩南諸島勉強会	三島村を国際観光拠点に! 一鹿大生による魅力発掘と多言語発信	東京オリンピック・パラリンピックの際にギニア共和国のホストタウンとなっている三島村において、英語・中国語・韓国語に加えてギニア共和国の公用語であるフランス語で、外国人旅行者が滞在する際に必要となる生活情報を発信することにより、外国人来島者の利便性向上、トラブル回避、潜在的な外国人来島者の獲得機会につなげる。
4	14時50分～	チーム中名	喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム	現在深刻な問題となっている空き家を活用して、夏休みに期間限定のイベントカフェを大学生と地域住民とで協働して行うことにより、喜入中名町の地域活性化を目指す。
5	15時05分～	鹿児島大学ウミガメ研究会	夏休み自由研究お助け隊! ～ウミガメと吹上浜のなかまたち～	本プログラムでは、夏休みの期間に小学校高学年を対象とし、夏休みの自由研究をサポートするイベントの企画、運営を行う。具体的には、研究テーマの設定から、ウミガメや海について学ぶフィールド調査、課題のまとめまでのアドバイスを行うことで、環境問題に対する問題意識の向上及びその解決に意欲的に取り組む人材育成を目指す。

令和元年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



(1)

プログラム名：こんなところに口腔がん！？ ～世界一受けたいがん検診～
グループ名：口腔外科ゼミ

【概要・目的】

近年、口腔がんへの関心が各種メディアの影響によって高まりつつある。しかし、鹿児島にはへき地や離島が多く、がん治療拠点病院も少ないため、たとえ口腔内に異常があったとしても疼痛などの自覚症状が深刻化した時にしか来院されず、結果口腔がんが進行した状態で発見されることが多い。鹿児島には歯科学部があるにもかかわらず、鹿児島の口腔がんの死亡率は全国第二位と非常に高い。

そのため、我々は各地方で行われるがん検診に学生自ら積極的に介入し、口腔がんについての啓発活動を行い、口腔がんの患者や口腔がんになるリスクの高い患者を早期に発見し、治療を行うための一助となることを目的として行った。

【活動内容】

2019/6/15 えびの市がん検診
2019/8/11 薩摩川内市 川内保健センター
2019/11/9 日置市 伊集院文化会館
2019/11/10 始良市 加音ホール
2019/11/10 鹿児島市 鹿児島アリーナ
2019/11/17 さつま町 薩摩総合運動公園
2019/11/23 南大隅町 南大隅町根占ふれあいドーム
2020/2/9 霧島市 霧島市国分シビックセンター
2020/2/16 いちき串木野市 いちき串木野市役所

これらの場所にて口腔がん検診が実施され、それらに同行しポスター発表やチラシの配布、口腔がん検診実施の案内、アンケートなどを通して、口腔がんの啓発活動を行った。

歯科医師会の方との対話を通し、地方歯科医院での口腔粘膜疾患の状態、歯科医院の現状を伺い、今後このプロジェクトを行っていく中で、自分たちが注意すべき点や理想と今後の目標について検討を行い、対策を話し合った。

アンケート結果を吟味し、今後プロジェクトを実施し続けていくための改善案を全体で話し合った。

【効果・成果】

今回のがん検診およびその待ち時間で行われたポスター発表の満足度が100%と回答した人は全体の70%を超え、平均満足度は90%を超えた。このことから、がん検診を今後も行っていくべきであることが示唆された。また、2回目以降の参加者も存在しており、このまま口腔がん検診を行い続ける事で受診者が増加し、地域の口腔がんにおける死亡率減少、および口腔がんになる前の患者を治療することで口腔がん自体の発症率の低下につながると考えられた。

【今後の計画、展望等】

近年徐々に口腔がんへの関心が高まってきてはいるものの、未だ鹿児島を含め日本全体を通して口腔がんへの関心や知識が不十分である。さらに鹿児島にはへき地や離島という医療が十分でない地域も多く存在している。我々は今後もこの活動を実施していくことで、毎年口腔がん検診を受診する人数を増加させ、鹿児島の口腔がんによる死亡率の減少の一因となっていきたいと考える。

こんなところに口腔癌 ～世界一受けたいがん検診～

鹿児島大学口腔外科ゼミ

<連携協働>

鹿児島大学医歯学総合研究科 顎顔面疾患制御学分野（口腔外科）

鹿児島県歯科医師会

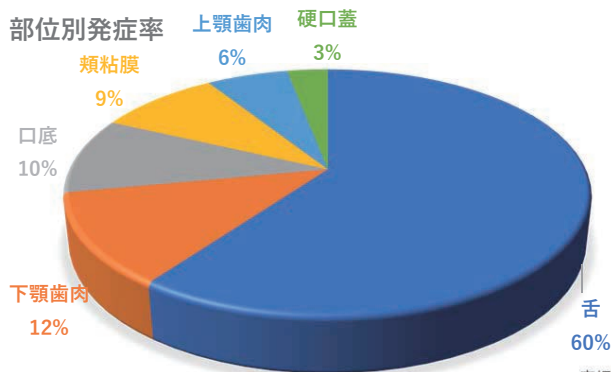
鹿児島市歯科医師会、始良地区歯科医師会、南大隅町歯科医師会、
いちき串木野日置歯科医師会、薩摩川内市・さつま町歯科医師会、小林えびの西諸歯科医師会

お口にがんができること
あなたは知っていましたか？

口腔がんとは…



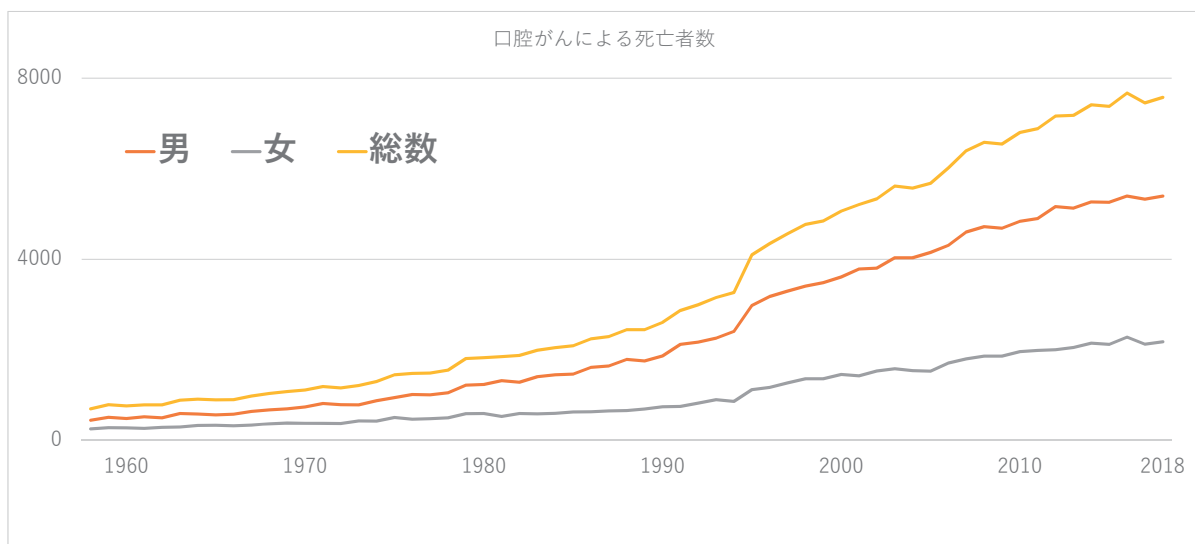
- 初期は**痛みがない**ことが多い
- **口内炎、歯槽膿漏**と間違えやすい
- 男女比は3：2で男性が多い
- 危険因子としては**飲酒**や**喫煙**



- 口腔がんは進行すると**嚥下、発音、呼吸**などに障害が出る
- 進行し、転移を起こした場合**命にかかわる可能性**がある

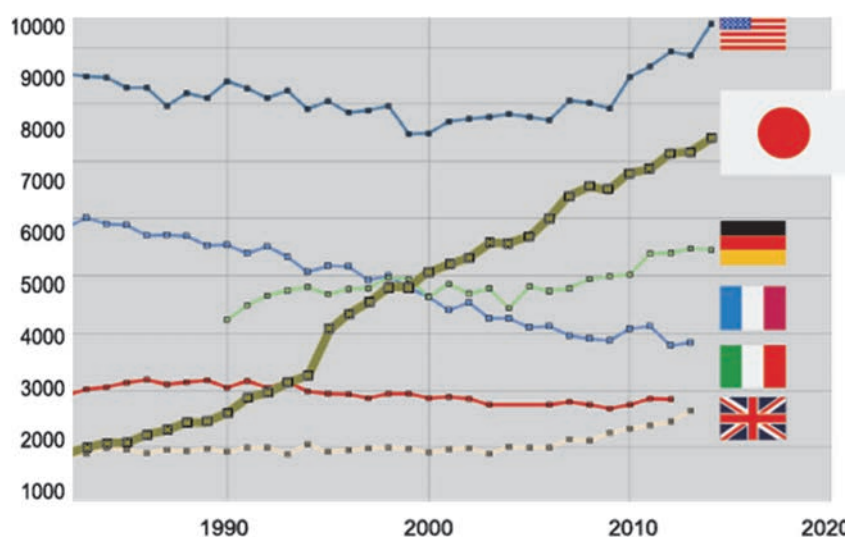
鹿児島大学大学院医学総合研究科顎顔面機能再生学専攻顎顔面表態制御学分野 診療・研究内容

日本の口腔・咽頭がんの死亡者数

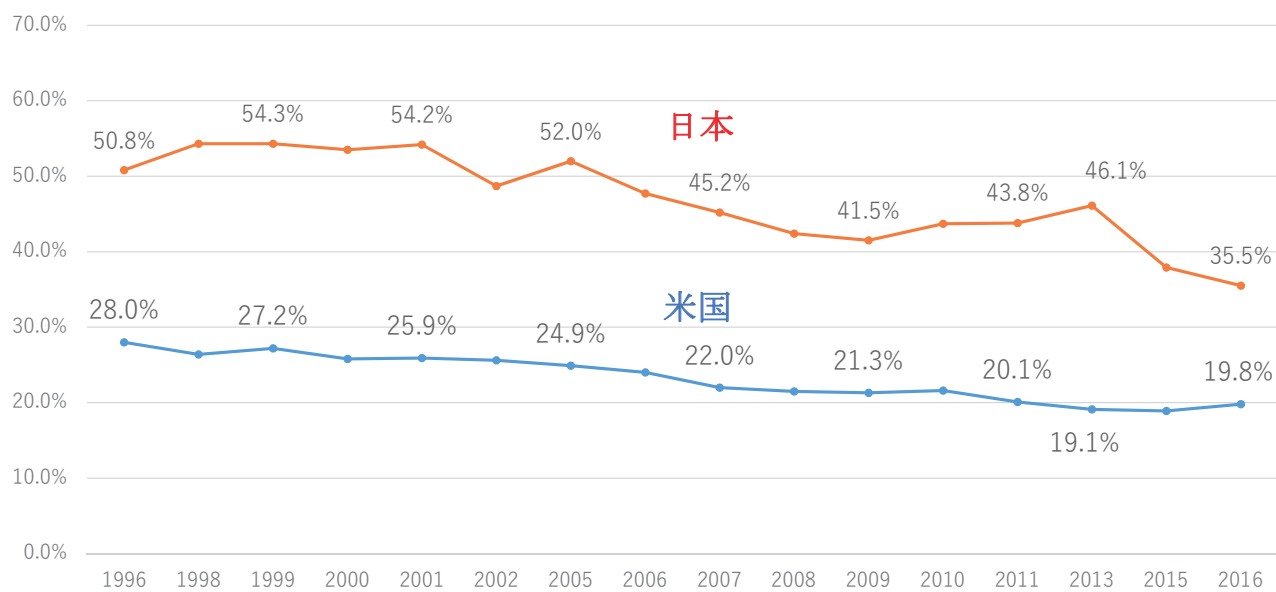


国立がん研究センター（1958-2018）口腔咽頭がん死亡者数のデータ引用

日本と他の先進国における 口腔がん死亡者数の推移



日本と米国の口腔がん死亡率の推移



国立がん研究センター、米国Cancer Statistics

なぜ日本は口腔がん死亡率が高いのか

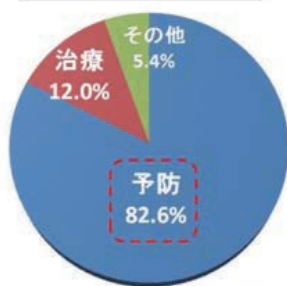
日本とアメリカとの通院事情比較（歯科の受診理由）

＜日本の受診理由内訳＞



厚生労働省『保健動向調査』1999年より算出

＜米国の受診理由内訳＞



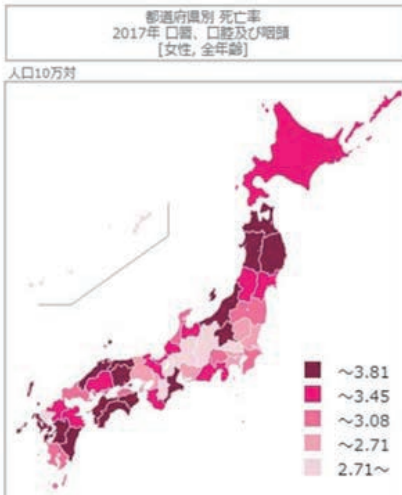
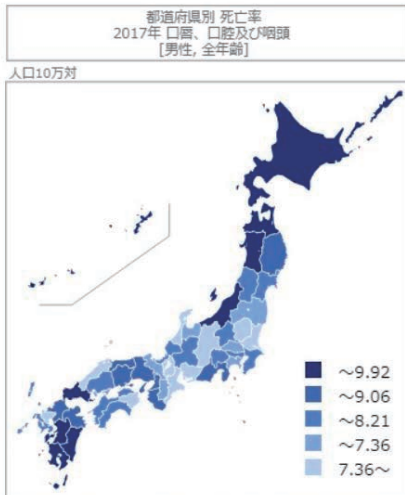
『American Dental Association』1994より算出



北米では、どこの歯科クリニックでも「口腔がん検診」を行っています

歯科は日本人にとっては、「痛くなったら通う場所」になっている

鹿児島県の口腔がん事情



国立がん研究センターの2015年の調査では、口腔がんの患者数自体は全国平均と大きく差はない！

にもかかわらず、鹿児島県は口腔・咽頭癌の死亡率が全国平均の

約1.5倍

であることが示された。

鹿児島県の口腔がん死亡率は

全国2位！

鹿児島島の口腔がんの**死亡率**を減らしたい！



口腔がんを**認知**してもらうことが大切



口腔がん検診に参加して
ポスター説明および**アンケート調査**を行った

活動日程



2019/6/15	えびの市	－人
2019/8/11	薩摩川内市	－人
2019/11/9	日置市	52人
2019/11/10	始良市	113人
2019/11/10	鹿児島市	127人
2019/11/17	さつま町	57人
2019/11/23	南大隅町	65人
2020/2/9	霧島市	153人
2020/2/16	いちき串木野市	42人

合計 609人

アンケート内容

- 1.性別
- 2.年齢
- 3.飲酒
- 4.喫煙
- 5.受診動機
- 6.口の中で気になるところ
- 7.体の気になるところ
- 8.満足度

1. 性別 男 : 女

2. 年齢 () 歳

3. 飲酒 飲まない 週に1~2日 週に3~4日 ほぼ毎日

4. 喫煙 煙草を吸わない 煙草を吸う(1日当たり) 本 吸っていたことがある(年齢)

5. 受診動機

- ・近くを通った
- ・広告やポスターなどを見た
- ・知り合いが人になった
- ・テレビや新聞で口腔がんを知り、気になった
- ・インターネットで知った
- ・知人や親戚、家族に紹介された
- ・無料だったから
- ・2回目以降の健診
- ・口の中に違和感などがあるから
- ・なんとなく

6. 口の中の気になるところ

- ・痛いところがある
- ・臭いが気になる
- ・血が出る
- ・腫れている
- ・乾燥している
- ・変な色のあるところがある
- ・歯が浮く
- ・腫れや痛みがある(音がする、口が開けにくいなど)
- ・かゆみがある
- ・舌に違和感がある(しむねや味がおかしく感じるなど)
- ・特になし

7. 体の気になるところ

- ・高血圧
- ・心臓の病気
- ・糖尿病
- ・アレルギー疾患(具体的に)
- ・喘息
- ・肝臓病
- ・腎臓病
- ・全身のどこかでがんになった経験がある
- ・今受診している()
- ・その他()

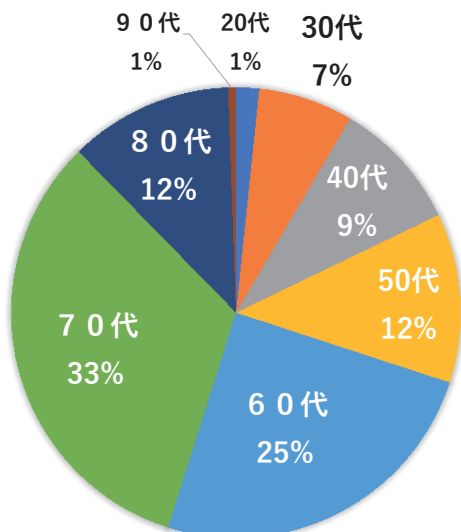
8. 満足度 (今回のがん検診がどれほど満足できたか線のうちどこを印かのチェックをお願いします)

0 不満 50 満足 100 (%)

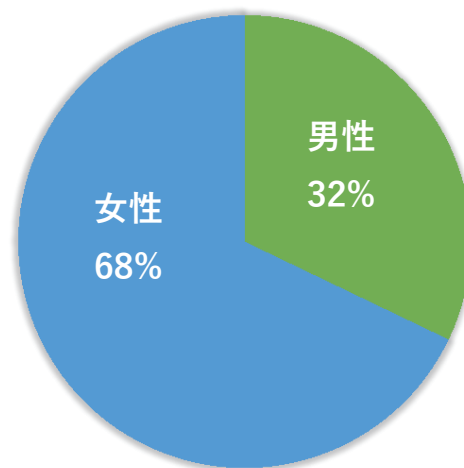
アンケートへのご協力ありがとうございました。 鹿児島大学歯学部口腔外科

成果報告

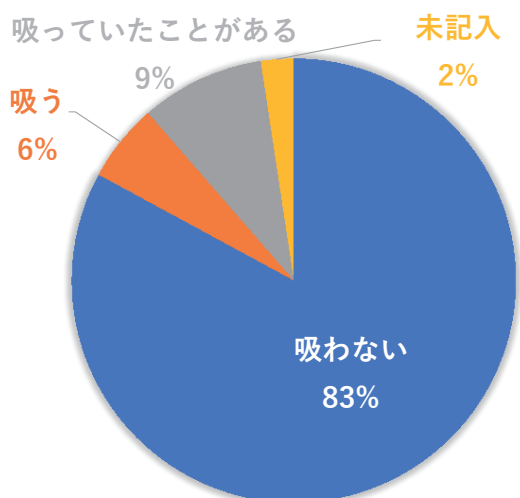
来場者年齢



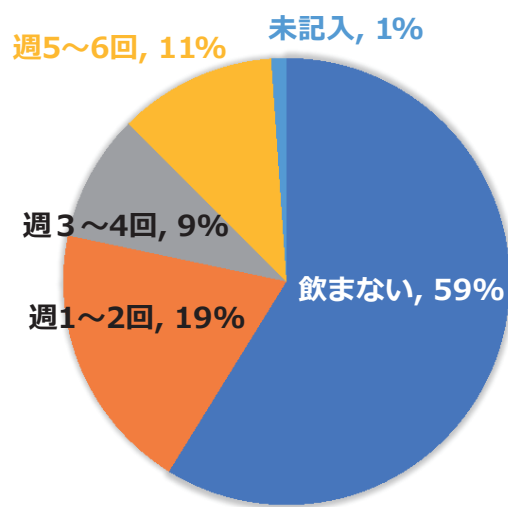
男女比



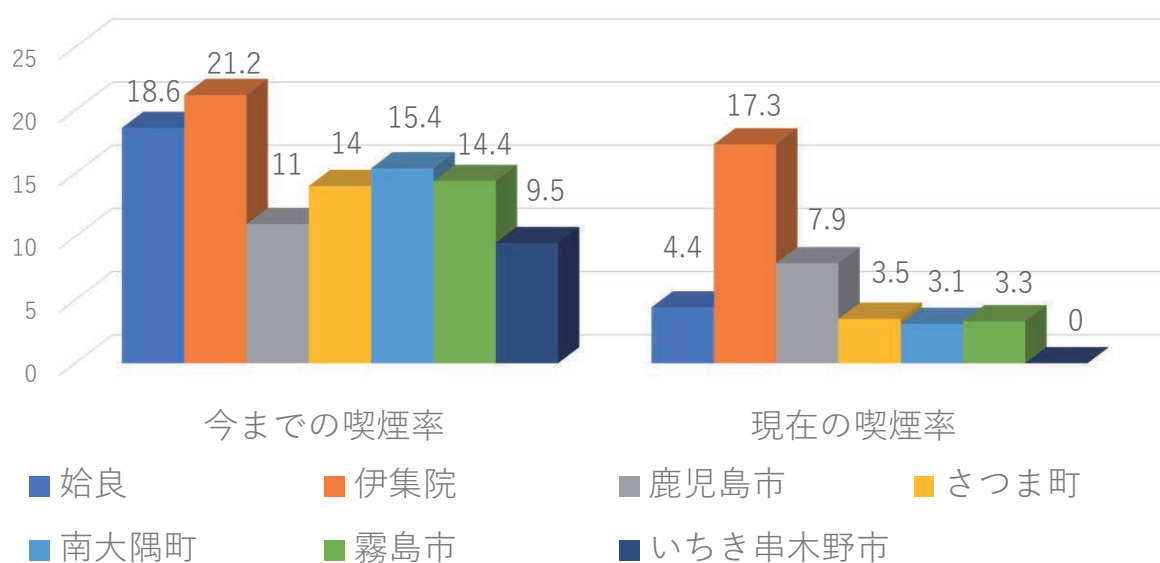
喫煙歴



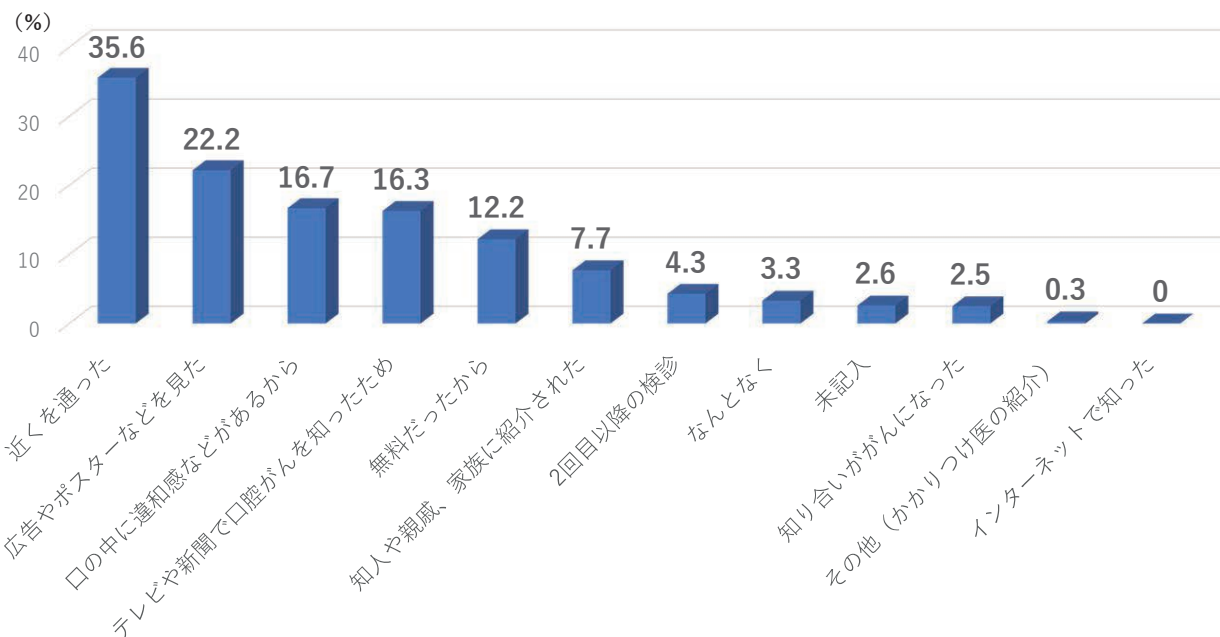
飲酒歴



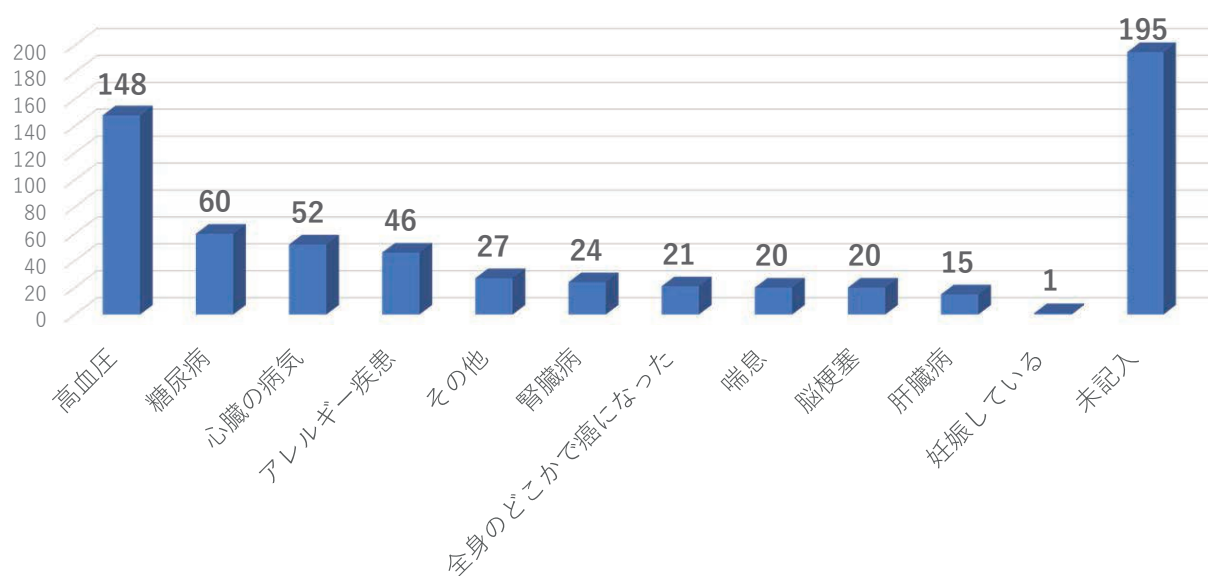
がん検診に来られた地域別喫煙率



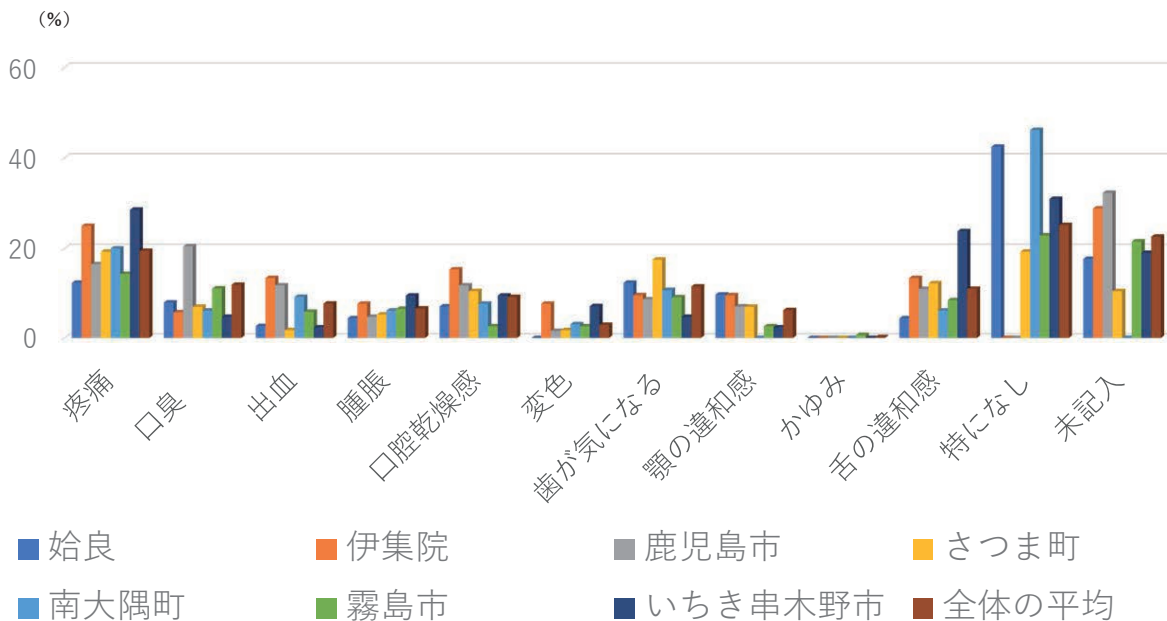
受診動機



全身疾患



来場された方の口腔内の気になる点



OPMDs とは

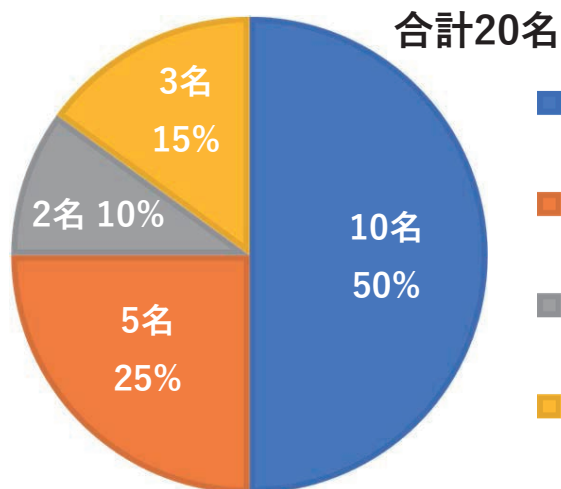
- 2017年にWHOの頭頸部腫瘍分類で提示された用語で Oral Potentially Malignant Disorders (口腔潜在的悪性疾患)
- 口腔における癌化リスクのある臨床症状のこと

以下の12種類

白板症、扁平苔癬、カンジダ症、紅板症、紅白板症、
 口腔粘膜下線維症、先天性角化異常症、無煙タバコ角化症、
 逆喫煙による口蓋角化症、光線性角化症（口唇のみ）
 円板状ループスエリテマトーデス、梅毒性舌炎、



大学病院に紹介した患者



■ OPMDs

■ 歯肉・歯周炎

■ 良性腫瘍

■ その他

口腔がんの前段階疾患の
OPMDsが10名

炎症性疾患を5名

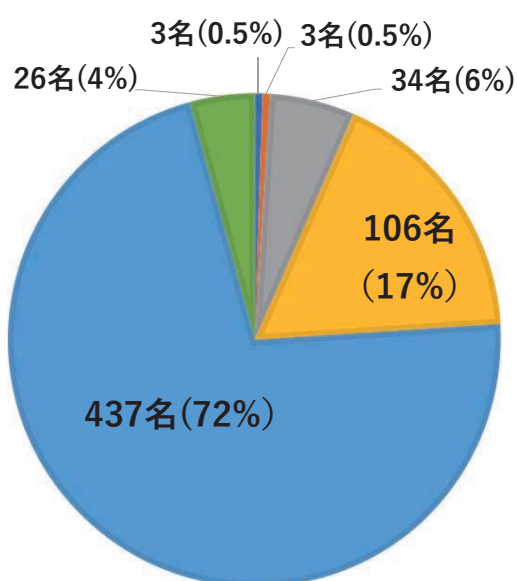
良性腫瘍を2名

その他に舌の状態異常が2名
膿瘍が1名



大学病院にて
継続治療中

がん検診に対する満足度



■ 0~24%

■ 25~49%

■ 50~74%

■ 75~99%

■ 100%

■ 未回答

全体のうち **543名(89%)** の受診者が
がん検診に対し、75%以上満足した
と答えた。

満足度が高くなった意見

- ・若い子と話せてすごく楽しかった
- ・ポスターがあったから待ち時間を短く感じた
- ・ほめてもらえたため楽しかった
- ・学生さんの説明が分かりやすかった

歯科医師会の補助を行っていた
歯科衛生士より

- ・学生さんの説明が非常にわかりやすく自分たちも参考にしたい。

口腔がん検診の結果・考察①

鹿児島大学を主体とした口腔がん検診



徐々に活動の範囲が**広がっている**



より多くの人に口腔がんへの**知識を広める**ことに成功した



一回来たことで満足し、**毎年来ている人は少ない**



口腔がん検診の結果・考察②

ポスターやチラシを通じた啓発活動



視覚によるインパクト

持ち帰ってもらうことでの情報の定着



受診者からの**満足度の向上**



場所の制限や**長い待ち時間**
多くの受診者への対応で**説明時間が取れない**



口腔がん検診の結果・考察③



通りがかっただけの受診者が多くみられる
地域のイベントにあわせ、**ステージ上**で啓発活動を行った



多くの**普段興味を持たない方**への情報提供を行うことができた



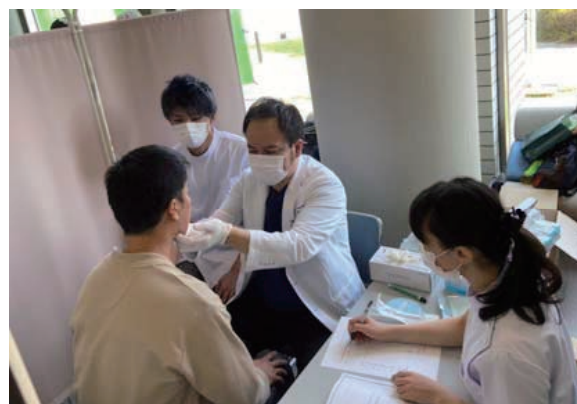
中には口腔がんになりやすい方や、治療の必要のある方を
本人に自覚がない方からも発見できた



情報提供を行う**手段**が限られている
リスクの高い**喫煙歴のある60代以降の男性**の受診率が低い

今後の展望①

口腔がんそのものの**理解を向上**させ、
満足度がより向上されるような活動にしていく



今後の展望②

タブレットや**モニター**などを活用し、説明する時間が足りない場合でも説明が行える環境を作っていく。



今後の展望③

家族からの紹介を期待し、**パンフレットの配布**を継続する。さらに今後は**インターネット**、**SNS**による啓発活動を行う。



ご清聴ありがとうございました



令和元年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



(2)

プログラム名：錦江町子ども未来作りプロジェクト
グループ名：KG base

【概要・目的】

現在日本全体で高齢化、若者の人口流出が進むなかで、鹿児島県内においてもこの問題の対策を講じていく必要がある。私達は鹿児島県内で生産人口 42 位/43 位中、老年人口 42 位/43 位中である(平成 29 年 10 月現在)錦江町に注目した。この企画は、地域に愛着を持つとともに、自己の将来に夢を描け、さらにそれを実現できる能力を備えた次世代の地域の担い手育成と「錦江町に夢を育む文化と風土を創ること」を目的としている。錦江町の子どもたちが、夢を持ち自分の将来に向けて動き出し、5 年後、10 年後に錦江町の中から地元を盛り上げたいという人や錦江町を残していきたいという新しい錦江町を創ることのできる人材を輩出するために行うものである。

【活動内容】

錦江町役場と連携し、小学生向けのワークショップ講座を計4回実施し、小学生と大学生の交流や小学生の将来の夢に向けての活動を行った。

- ①1回目講座では、小学生に地域を知ってもらうことを目的に、地元商店街をまちあるきしながら、商店街の方々に地域のことや、子どもの頃の将来の夢などのインタビュー調査を行い、発表した。
- ②2回目講座では、子どもたちの将来の夢について、対話を通して夢を見つけ、自分たちが将来どんな職業に就いて、何をしたいのかを考える講座を行った。
- ③3回目講座では、2回目に見つけた子どもたちの将来の夢を2枚の方眼紙にまとめ、第4回講座で騎射場のきさき市にて行われる、子どもたちの将来の夢発表の準備として、発表を行う練習を行った。
- ④4回目講座では騎射場で行われている、のきさき市に物産販売と夢発表で出店を行った。

【効果・成果】

今回の企画の結果、子どもたちが地域の事を知り、地域の方と接しながら、将来の夢について考え、夢の発表を通して将来の一步目をサポートできたと思われる。また今回の企画により、錦江町役場との連携することができ、今後も活動できる地盤をつくる事ができたと感じている。

【今後の計画、展望等】

今後は小学生だけでなく、中学生や高校生も対象にした講座の実施や今回のような講座のモデルケースを形成していき、他地域でも応用できるように形式化していくことが今後の展望と考えている。



原体験

人が少ないからね、交流する人がいないもん、
空がそうちゃんみたいなこと言うのが想像できない



錦江町の課題

交流機会の不足

による将来への不透明感

唯一、錦江町在住の現役鹿児島大学生

子どもたちに大学生ならではの価値提供をしたい

最終的なゴール

錦江町に 「夢を育む文化と風土」をつくる

将来の夢を見つけよう！
そして夢を表現してみよう！



大学生って何するの？
自分の好きなこと？
将来の夢は？

わくわく！～鹿児島大学生と一緒に探そう～
夢発見プログラム

月 日：9/14（土）9/28（土）10/20（日）10/27（日）全4日間
最終日は貸切バスで鹿児島市のお祭りに行きます！
対象：町内の小学4年生～小学6年生 10名
場所：地域活性化センター神川（旧神川中学校）予定
参加費：無料
申し込み方法：事前説明会（8/28）にて全4日間の申込み用紙を配布
しますのでご参加下さい。詳細は裏面にご覧下さい。
（ご参加が難しい場合は下記連絡先までお問い合わせ下さい。）

主催：KG base TEL 090-9226-7821 kadai.kgbase@gmail.com
協力：錦江町まち・ひと・「MIRAI」創生協議会

4日間の全プログラム内容

① 錦江町を深検しよう！

9/14（土）13:00～17:00
（快晴を希望）
子ども
の会
参加費
無料
鹿児島市と大学生との
交流を通じて、仲良くな
ろう。
町内を一緒に探検して、
錦江町の魅力を再発見し
よう。

② 夢を一緒に探そう！

9/28（土）10:00～16:00
（快晴・秋風を希望）
子ども
の会
参加費
無料
どんな物に住みたい？
どんなことをしたい？
夢って何だろう？
自分だけの、とっておきの
夢を一緒に見つけよう。

③ 夢を話してみよう！

10/20（日）13:00～16:00
（快晴を希望）
子ども
の会
参加費
無料
自分の夢、したいことを
書きだそう。伝えてみよ
う。
のささき市のテーマ、
「あなたとわたしがつなが
るマーケット」について
知ろう。

④ 夢で交流してみよう！

10/27（日）※時役関係委員会
開催要
件あり
のささき市という鹿児島
市である事業者一人
間のマーケットイベン
トに参加しよう。
出店体験をしたり、町外
の子どもたちと夢で交
流をしたりして、絆を深
めよう。

夢発見プログラム事前説明会（交流会）

8/28（水）15:00～17:00

地域活性化センター神川(旧神川中学校) コワーキングスペースにて
参加希望の方、その保護者様、話を聞いてみたい方、どなたでもお
気軽にお越しください。以下の内容を予定しています。

- ・この事業に関わる大学生10名程度の紹介
- ・大学生とのレクリエーション
- ・上記プログラムについての説明
- ・最終日に参加する市内のイベント「のささき市」について
- ・本プログラムの応募用紙配布

はじめまして！私たちは鹿児島大学の学生で今年の5月に結成しました。
鹿児島大学を休学し、地域おこし協力隊として活動している井上から錦江町の魅力を知り、
大学生として関わりたいという思いのもとこのような活動を始めました。
本事業は錦江町と鹿児島大学生で初めての試みです。是非、説明会にお話しください。
KG base（鹿児島、井上）

0日目(8月28日) 事前説明会

- ・大学生と子どもたちの顔合わせ
- ・保護者への事業内容説明
同意書配布



自己紹介シート

わたしの名前を _____ として、
みんなから _____ とよばれています。
出身は _____ で、誕生日は _____ 月 _____ 日です。

最近学んでいること	最近の趣味について
目標や夢、やりたいこと	学校で勉強していること
好きな動物について	
大学生(高校生)のみなさんに聞いてみたいこと	

1日目(9月14日) 錦江町を探検しよう

- ・町内のお店をめぐる、お仕事についてのインタビュー
- ・なぞときを通して大学生との交流



わくわく！ 体験型職業体験プログラム インタビューシート

お題: _____

お題の名前 _____

お題の場所(町内) _____

お題の事業(お仕事)の概要(仕事) _____

お題で使っている道具(機材) _____

お題で大切にしていること(仕事) _____

お題の場所(町内) _____

お題の事業(お仕事) _____

お題で使っている道具(機材) _____

お題で大切にしていること(仕事) _____

インタビューさせていただき
ありがとうございました



2日目(9月28日) 一緒に夢を探そう

大学生と小学生1対1で
夢についての対話



3日目(10月20日) 夢について話そう

- ・発表原稿の作成
- ・発表の順番決め
- ・発表練習



最終日(10月27日) 自分の夢を発表

参加者1万人規模の
イベントのステージで
夢の発表





人が少ないからね、交流する人がいないもん、
空がそうちゃんみたいなこと言うのが想像できない



本プログラム関係者

・参加小学生 10名

・参加大学生 16名

・参加者の保護者、家族 41名

・行政関係 8名

(町長、政策企画課、未来づくり課、教育委員会、MIRAI協議会)

・錦江町学校関係 7名

(大根占小学校、神川小学校、宿利原小学校、池田小学校)

・大根占中央商店街 16名

・鹿児島騎射場のきさき市 10000名

このプログラムを通し参加小学生1人に対して、

町内外合わせて**88名**
の新しい人との出会いを提供

極端にすくなかった
大学生との交流を通して

錦江町に
「夢を育む文化と風土」
をつくるきっかけになった。



風土

特定の地域において人々の**気質**や**文化**に影響を及ぼす**環境**のことを定義としている。

文化

人々が後天的に習得することができ、集団や共同体が創造し、**受け継いでいる****認識**と**実践**のゆるやかな形態のことであると、定義しておきます。

vision 夢で溢れる錦江町
持続可能なまち、人、未来づくり

風土 = ①持続可能な地域を作り方を理解し、応援・支援
できる環境

②持続可能なまち、人、未来に対して、行政、民間、地元住民、第3者が一緒に考えられる環境

(価値観の一致、話し合える場所、各セクターにおける連携関係の構築)

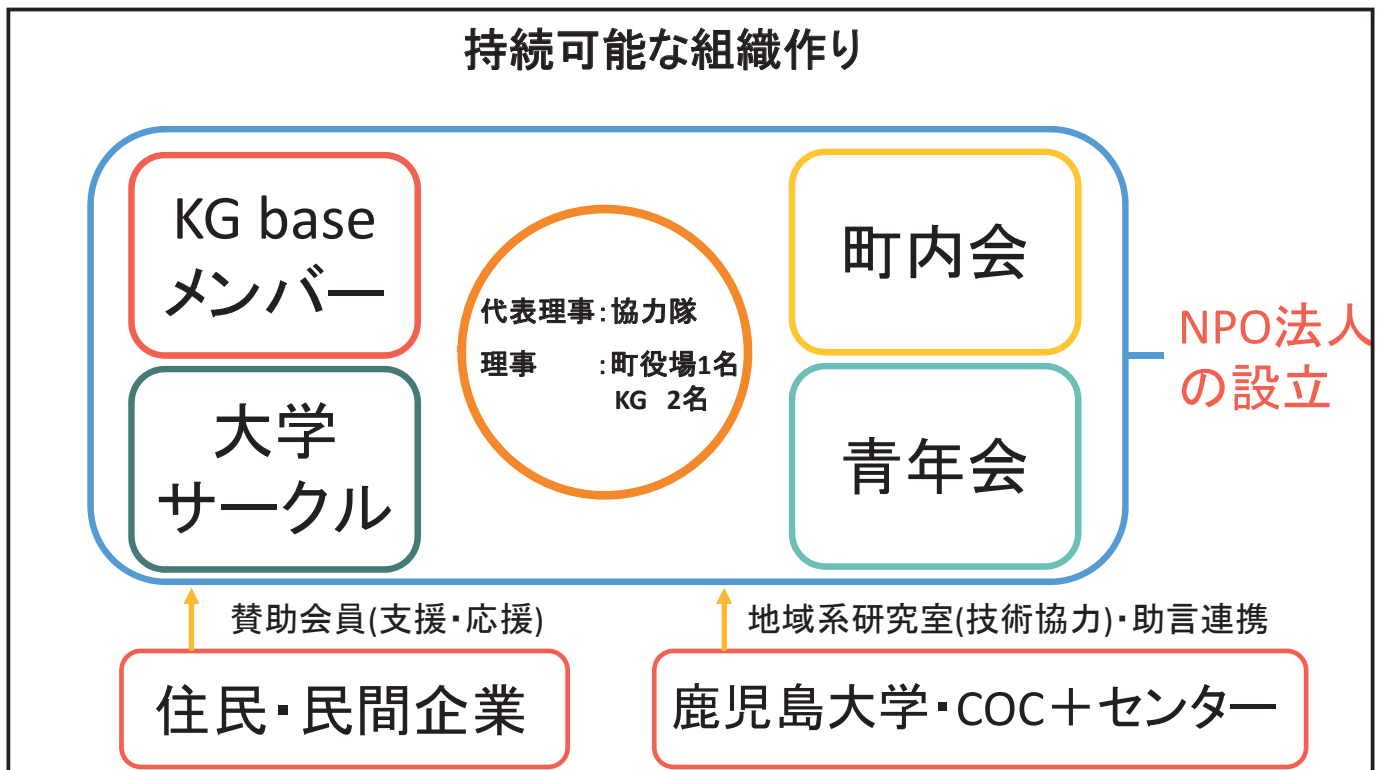
文化 = 風土として定着してきた、価値観や連携体制に基づいて、実践的な活動を行い、その活動や考え方が次の世代に引き継がれていくこと。

文化と風土の形成段階

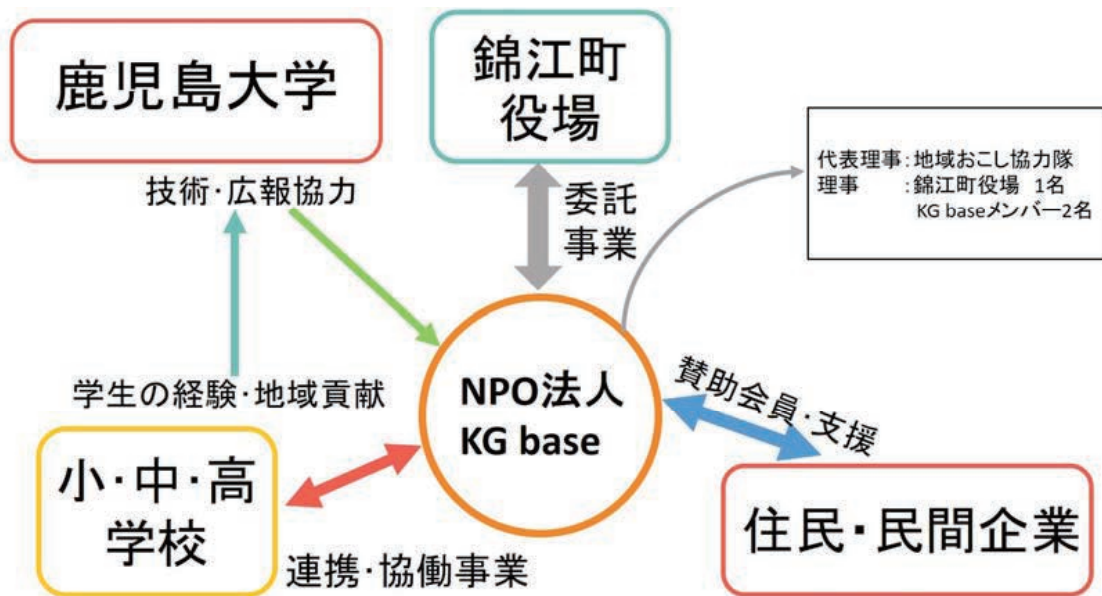


今後の課題・展望

- ①持続可能な組織作り
- ②地域連携の強化
- ③モデルケースの確立(大学と地域の連携)



地域連携の強化



共同事業として、錦江町モデルをパッケージ化
教育プログラムとして、他地域へ



令和2年度から始まる錦江町の教育事業に 本プログラムの仕組みが再利用

錦江町小学生SDGs教育事業

【目的・効果】
SDGsは1987年国連環境特別委員会が発表した報告書(Our Common Future【我々共通の未来】)が発想の始まりで、2015年に「持続可能な成長目標」として定義されました。これは将来の世代の欲求(ニーズ)を満たしつつ、現代の世代の欲求も満足させるような開発ですが、その考え方に合えばどんな開発(も良い訳ではなく、「持続可能」を空想に置いたもので、小学生から簡単なWSを経験しながら将来を考える機会を提供するとともに、中学生から地元に対する可能性、自分に対する可能性、そして未来をつくることに対する可能性を感じてもらおうアントレプレナーシップ教育へつなぐ一貫した人材育成(錦江学)を目指すものである。

【事業内容】
小学生の総合学習プログラムとして、地元のフィールドワークを通じたアイデアの発想から(アイデア発想編)、そのアイデアを実現するためのはじめの一歩を踏み出すプロジェクトの実行(アイデア実践編)、そして、その一連の活動を町内外に発表するものを想定する。これらの活動を通じ、地元との関係性を深化させ、限られた資源や、これまでの常識を乗り越え、チャンスをつかむ力を育むことを目標とします。

【特筆すべき事項】
一般論として社会の中で意見が顕在化されにくい子ども世代が、ワークショップを通じ、自分、まちや社会の将来を「持続可能な」ことを考えながら、「お金・知恵・技術」を使う主催者教育やキャリア教育の第一歩とする。

本事業で取り組む0つの目標	目標(成長戦略)	ゴールの「特」
	3 すべての人に 健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
	4 質の高い教育を みんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
	5 ジェンダー平等を實現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
	11 住み続けられる まちづくりを	包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を實現する
	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する

来年度より大根占小学校運営協議会 に参加し、地域学校協働活動として 本プロジェクトを引き続き継続。

町の来年度教育予算から
40万円規模の事業委託予定。

※地域学校協働活動とは

地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働していく活動
※青森県教育委員会ガイドブックより

令和元年度
コミュニティ・スクール指定校

第4回 大根占小学校運営協議会

《会 場》 (進行：根田教頭)

○ はじめのことば (進行)

1. 学校長あいさつ

2. 議 議 (議長：会長)

(1) 学校運営について

- ・2学期活動反省、3学期活動予定
- ・来年度学校経営方針
- ・町施策、MIRAI施策について

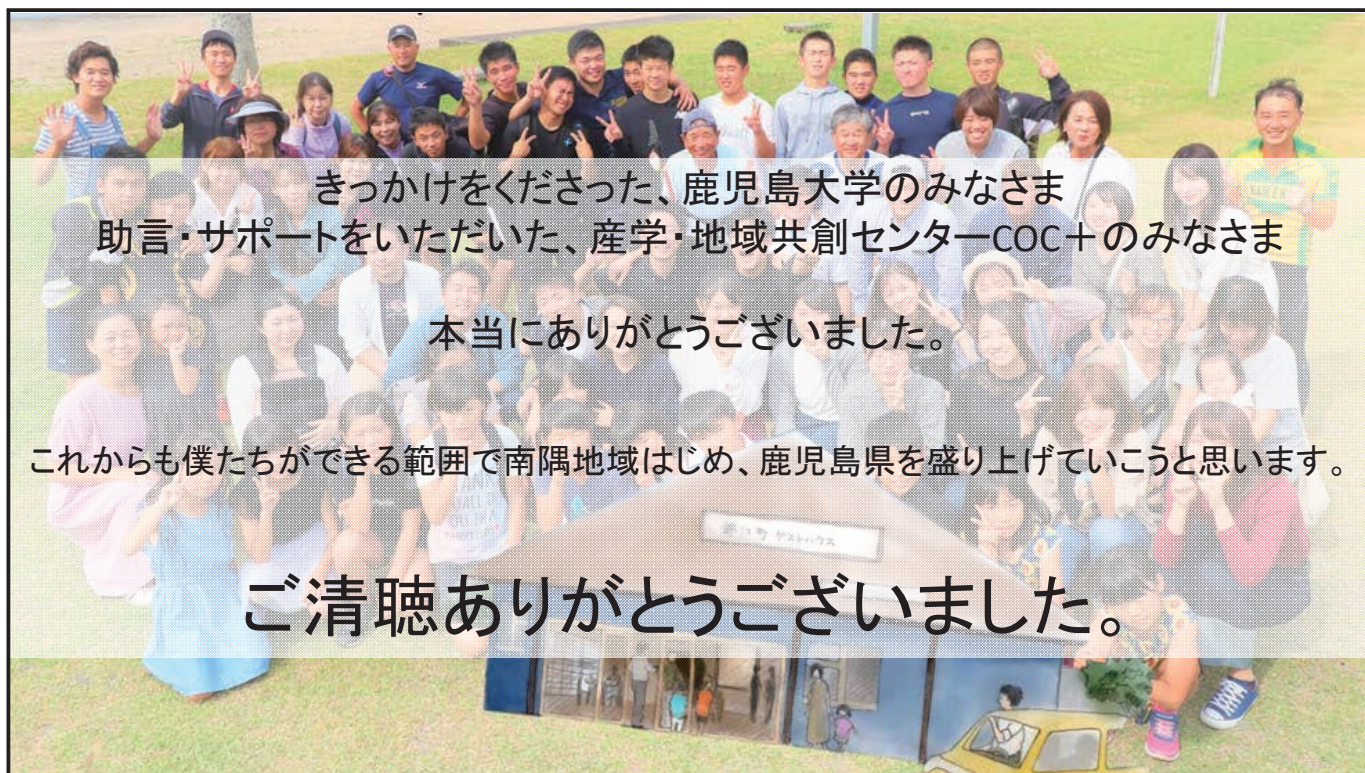
(2) 学校運営協議会最終評価について

(3) 教育活動についての意見交換

(4) その他

△ おわりのことば (会長)

令和2年1月23日(木)
18:30~20:00
錦江町立大根占小学校



きっかけをくださった、鹿児島大学のみなさま
助言・サポートをいただいた、産学・地域共創センターCOC+のみなさま
本当にありがとうございました。

これからも僕たちができる範囲で南隅地域はじめ、鹿児島県を盛り上げていこうと思います。

ご清聴ありがとうございました。

令和元年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



(3)

プログラム名：三島村を国際観光拠点に！ — 鹿大生による魅力発掘と多言語発信—
グループ名：薩南諸島勉強会

【概要・目的】

三島村は、2020東京オリンピック・パラリンピックの際にギニア共和国のホストタウンに指定されていることや、ユネスコ無形文化遺産、日本ジオパークへの登録によって来島外国人の増加が見込まれている。一方、本村に関する外国語の情報は限られている。本プログラムでは、英語、中国語のほかに、ギニア共和国の公用語であるフランス語で情報発信を行うことによって、予測されるトラブルの未然防止と来島者の利便性の向上を目指す。また、留学生を含む学生が主体となって活動することにより、若年層や外国人の視点に立った魅力の発掘・発信が可能となる。

【活動内容】

①三島村フィールドワーク

第1回(8/16～8/18)、第2回(9/9～9/13)フィールドワークを行い、移住者を含めた幅広い島民から、理想的な観光客受け入れの在り方について聞き取り調査を行った。また、実際に滞在したことで生じたトラブルや、学生・留学生の視点から見た硫黄島の魅力を列挙した。

②多言語情報発信

フィールドワーク、関係者との協議に基づいて掲載内容を決定したのち、学生らによって多言語翻訳、媒体・設置場所の選定が行われた。翻訳された観光情報は紙媒体のほか、インターネット上でも公開している。

③活動報告会・提言書

市民、関係者から本活動について広く意見を募るため、自主的な活動報告会を開催した。また、提言書を印刷し関係者に配布することでプログラムの総括とする。

【効果・成果】

観光パンフレット『みしま巡り』の英・中・仏語翻訳により、観光情報の多言語発信が可能となった。また、既存の観光パンフレットとは別に、独自の注意喚起パンフレット『みしま旅行にあたって』を作製したことで、トラブルの未然防止も効果的に行える。本活動の様子はSNS、ホームページを用いて随時多言語発信しているほか、新聞や『島嶼研便り』、『広報 みしま』へも掲載予定である。さらに、活動報告会を開催し市民や関係者と意見交換を行ったほか、活動を通じて考察した三島村観光の在り方を提言書にまとめ、三島村役場、大学へも提出する。

【今後の計画、展望等】

パンフレット公開とともに利用者、関係者よりフィードバックを得て、内容・表記の改善に努める。また、活動報告会の開催・提言書の提出が、今後の三島村・他地域の観光の在り方について当事者らの考えるきっかけとなることを期待している。

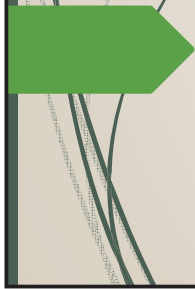
鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム
『地方創生活動部門』成果発表会（2020年2月27日）



三島村を国際観光拠点に！ —鹿大生による魅力発掘と多言語発信—

薩南諸島勉強会

勝濱直椰（農学部），川原弘暉（工学部），堀江裕介（法文学部）



2

本日の発表内容

- 背景
- 目的・特色
- 活動内容（概要・詳細）
- 成果
- まとめ・展望

2020/2/27

背景 1：メンバー紹介



勝濱 直椰
代表

- 農学部 国際食料資源学特別コース
- 熱帯農業・農村開発
- ジャカルタ出身
横浜、コロラド、神戸、高野山 在住



川原 弘暉
監査

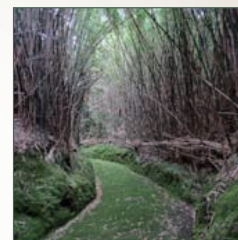
- 工学部 情報生体システム工学科
- 三島村役場でのインターンシップ
- 研究者や記者を交え三島村について研究会



堀江 裕介
会計

- 法文学部 法経社会学科経済コース
- 新興国の農漁村振興
- 協定校派遣事業によりトルコへ留学予定

背景 2：三島村 硫黄島（いおうじま）



- アクセス良好：フェリー 4時間・空路 50分
- 豊富な観光資源：温泉、メンドン（無形文化遺産）、マリナクティビティー、三島村・鬼界カルデラジオパーク
- 国際交流の下地：ギニア共和国との交流は25年目

背景 3：三島村では

(日本語の案内は充実しているけど.....)

村、県、民間による外国語情報発信は非常に限られている

- TOKYO2020：ギニア共和国のホストタウンとして登録
- 外国人旅行者の渡航先の多様化：秘境、自然、温泉、etc.

トラブルの未然防止・利便性の向上のためにも.....

- トラブルの未然防止：緊急・災害時の対応、診療所の利用
- 生活情報：宿泊所の予約、フェリーのチケット購入・悪天による抜港、食事、商店・金融機関の利用
- 観光情報：イベント、景勝地、アクティビティー

目的・特色

目的 (最終)

三島村を国際観光における拠点・モデルケースに！
⇒まずは観光客のトラブルの未然防止や利便性の向上から

特色

学生による魅力発掘と多言語* (英・中・仏) 発信

- 学生 (若年層・外国人留学生)：島民と異なる視点から魅力の発掘・発信
- 学生主体：経験、知識・知恵にも！

* 英・中：来県者数順位に基づく。仏：ギニア共和国の公用語 (仏語)。

活動内容 1：協同者

三島村定住促進課

- 増野雄基 様 (ジオパーク推進員)
- 小湊慎吾 様 (ジオパーク 兼 国際交流担当)

留学生

- 姜 霞 (鹿児島大学大学院 連合農学研究科 修士課程2年、中国出身)
- Jimmy Hirtzlin (鹿児島情報ビジネス公務員専門学校、フランス出身)

鹿児島大学 (敬称略)

- 鄭芝淑 (共通教育センター、韓国語)
- 寺西光輝 (共通教育センター、中国語)
- 二村淳子 (共通教育センター、フランス語)
- 牧野暁世 (産学・地域共創センター)

活動内容 概要 2



通年 (2019年度)

- 三島村職員、三島村観光案内所、教職員との意見交換
- ホームページやSNS、地元メディアを用いた近況報告・広報

三島村

- | | |
|-----|---|
| 8 月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回訪島：日本人学生
事前調査として、移住者を含めた幅広い島民へ聞き込みを行う |
| 9 月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 第2回訪島：留学生を伴って |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 観光やイベントへの参加し、島の魅力や注意事項の発見する |

本土

- 情報発信を行う媒体の選択
電子媒体：三島村・勉強会HP
紙媒体：村役場、フェリー待合所
- **情報の多言語翻訳**
訪島時の体験をもとに多言語翻訳
教員による訳文の校正を受ける

活動内容 概要 3 (一部予定)



	三島村	本土
11月		<ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報発信媒体の作成 電子・紙媒体での翻訳物作成
12月		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パンフレット、インターネットを用いた多言語発信の開始 	
2月以降	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用者に対するオンライン・紙面でのアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自主報告会：活動の報告、意見交換 ▶ 提言書配布：村役場、大学へ

第1回訪島： 2019/08/16 - 08/18

- ▶ 観光案内所、宿泊所関係者、区長、島民へ、望ましい観光の在り方についての聞き込み調査
- ▶ 他大学生との交流
- ▶ 第1回 訪島報告書の提出



島民の声 1

- 宿の予約をせずに来島されると、満室の可能性が高い
- 予約をしてから島を訪れることを、外国語でも発信して欲しい
- 旅行誌やSNSで取り上げられたことがあり、外国人観光客が大勢訪れていた時期があった



民宿経営者

薩南諸島勉強会

観光関係者



- 外国人観光客の受け入れは、日本人観光客受け入れの課題を解決した後でもいいのかも
- 日本人・外国人観光客受け入れの課題には共通点も多い
- トラブルの未然防止が、観光客、島民双方にとって望ましい

2020/2/27

第2回訪島：

2019/09/09 – 09/13

- ジオツアー、温泉掘り体験
- ジャンベ演奏体験
- 宿泊（島宿 ほんだ、孔雀の里）
- 食事（ベジタリアン）への対応
- 診療所の受診（熱中症）
- 第2回 訪島報告書の提出

薩南諸島勉強会



2020/2/27

島民の声 2

- 村道の除草や伝統行事の継承など、観光以外の課題もある
- 島民が個別に案内できる規模で受け入れ、質の高い観光を安全に楽しんでもらいたい



観光関係者

薩南諸島勉強会



民宿経営者

- 日本語が話せることは必須ではなく、互いに気持ちよく過ごせれば、外国人観光客も歓迎する
- 受け入れ前は過去のトラブルのこともあり不安であった。（留学生が）礼儀正しく、食事も喜んでくれ、自分まで楽しくなった

2020/2/27

訪島を受けて……

1. トラブル未然防止が最重要

- 利便性の向上のためには、トラブルの未然防止が必須：もっとも基本的

2. 利便性の向上

- 島の観光情報：
120パーセント楽しんでもらう！

1. 注意事項：
『みしま旅行にあたって』



相補的

2. 観光情報全般：
『みしま巡り』

薩南諸島勉強会

2020/2/27

パンフレット『みしま旅行にあたって』

必要最小限の注意事項

1. アクセス：フェリーの運航について
2. 宿泊：予約が必要
3. 支払い：現金のみ利用可
4. 緊急時：事故、ケガへの対応



「かごんまの色」も使用！

パンフレット『みしま巡り（英・中・仏）』

硫黄島を楽しむための観光情報

1. アクセス・宿泊・緊急時：詳細
2. 観光情報：観光マップ、イベント、景勝地、アクティビティ
3. ジオパーク：火山とその恵み



翻訳・発信

大半の観光客が利用す
フェリー待合所へ設置

- ウェブサイト、SNSを用いた発信
- 島嶼研便り（3月掲載予定）、
広報 みしま（掲載予定）、
朝日新聞（掲載予定）
- 三島村、大学への提言書の提出

薩南諸島勉強会



2020/2/27

活動報告会：

2020/02/10

- 三島村についての紹介
(三島村役場 定住促進課)
- 薩南諸島勉強会 活動報告
- パネルディスカッション



薩南諸島勉強会

2020/2/27

パネルディスカッション

- 島民との意思疎通が最大の壁
- 景勝地はSNS映えするため需要がある
- SNSで普段から島の様子を知りたい
- 外国との文化の違いで使い方がわからない（和式のお手洗いなど）



留学生

薩南諸島勉強会

参加者



- 学生向けツアーがあれば、島を訪れやすい
- 自身の周辺の学生にも三島旅行に関心のある人は多い
- 外国人観光客を呼び込むことは本当に適切？

報告会での意見も踏まえ提言書を執筆...

2020/2/27

まとめ・展望

三島村硫黄島に適した外国人観光客受け入れの姿とは？

⇒本活動を考えるきっかけに。他地域でも同様か？

トラブルの未然防止、利便性の向上のために...



学生による魅力発掘と英・中・仏語情報翻訳

1. 翻訳パンフレット

『みしま巡り』、『みしま旅行にあたって』

2. ホームページ、SNS、地元メディアを用いた活動の広報

3. 活動報告会の開催、三島村、大学への提言書の提出

薩南諸島勉強会

2020/2/27



成果発表会へのご参加ありがとうございます
アンケートへのご協力お願いいたします (QRコード)

Appendix : 薩南諸島勉強会について



- ▶ 鹿児島大学 有志学生と教職員による、薩南諸島の自然・文化の理解を目標とした勉強会
- ▶ 島々を対象とした勉強会、フィールドワーク
- ▶ 草の根レベルでの地域おこし活動を目指して！

ホームページ、SNSで活動をチェック！
"satsunan-islands-1.jimdosite.com"



薩南諸島勉強会

Appendix : グローバル化の中...

拡大する外国人旅行市場・国内旅行市場は頭打ち

- 観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」
2020年度：目標4000万人の訪日外国人旅行者数（2015年の約2倍）↑
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催↑
- 国内人口の減少↓

各市町村の課題

- 増加するインバウンドをいかに呼び込むか
- 多文化・多言語に対応した受け入れ態勢の構築

令和元年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム 「地方創生活動部門」成果報告書



(4)

プログラム名：喜入中名の空き家を活用した地域住民と学生による地域活性化プログラム
グループ名：チーム中名

【概要・目的】

年々空き家問題は全国的に深刻な問題となってきた。特に鹿児島県は、賃貸や売買のための空き家などを除いた「その他の空き家」の割合が統計上で全国1位となっており、高齢化に伴う空き家の増加が問題となっている。今回私たちが関わる喜入中名町も例外ではなく、高齢化に伴い空き家が増加し、同時に町の活気も薄れてしまっている。

そこで今回、中名の空き家を活用して夏休みにイベントカフェを開くことによって、家に引きこもりがちになっている高齢者や子どもたちに元気になってほしい、またこのイベントカフェというチャレンジに伴って他の地域住民の方々にも新しいことにチャレンジするきっかけとなってほしいと考えた。また空き家を活用したイベントカフェの開催によって地域活性化を促すとともに、これからの空き家の活用法を考えるきっかけになればと思い、提案をした。

【活動内容】

2019年6月に、物置と化していた空き家の掃除を学生と地域住民で行った。その後、古い家具をきれいにし、カフェ用のテーブルをそろえたり、エアコンを設置するなどの設備を整えた後、8月24日～27日の4日間限定でイベントカフェを開催した。

イベントカフェでは子ども食堂と連携したランチ提供とともに、日にちによって小学生対象の時計を作るワークショップや鹿児島大学学友会吹奏楽団のアンサンブル演奏、奇術同好会のマジック・ジャグリングパフォーマンスを行った。

【効果・成果】

イベントカフェの開催時には、これまで目にしたことがないほどたくさんの方々から空き家を訪れてこられ、小学生以下の子どもたちからその保護者、地域の高齢者の方などたくさんの方々から交流できる場となった。また大学サークル団体による演奏やパフォーマンスでも、大学生と子どもたちが交流して楽器やパフォーマンス道具を触らせてもらったり、大学生と地域住民が話している場面があったりと、子ども、地域住民、そして大学生までもが新しい体験に刺激を受ける4日間になったと思われる。

また、カフェ開催後は空き家をフリースペースとして提供していたのですが、イベントカフェの影響もあり「自分も空き家を使って何かしたい」という声が多くあった。現在までには不登校の子どもたちのための一時預かり施設や、赤ちゃんヨガの開催として利用されたり、地域住民の宴会の場としてダンスパーティーが開かれる等、地域住民が主体となったイベントが増え、イベントカフェ終了後も放置されることなく建物が使われるようになっている。

【今後の計画、展望等】

「空き家を使って何かしたい」という声が増えてきたので、これからは地域住民が主体となったそれらの希望をよりよく実現できるような仕組みづくりやサポートを行っていきたいと考えている

進取の精神チャレンジプログラム

喜入中名の空き家を活用した
地域住民と学生による
地域活性化プログラム

チーム中名

6月

空き家の掃除



8月

床のやすり掛け・
ニス塗り



古い家具のやすり掛け・
ワックス塗り

イベントカフェ開催
数日前



わくわく イベントカフェ

2019年 8月
24日(土)～27日(火)
11:30～15:00

まちかど
カフェシバハラ
&
しぶら邸 (空き家) にて

鹿児島大学の学生
まちかど
カフェシバハラ
共催

まちかどカフェシバハラの横にある築10年の古い家は、何年も空き家になっていました。ですが、一緒に空き家の活用方法を考えてくれた、鹿児島大学の先生や学生さんたちのご協力によって、この空き家を活用したイベントを開催することになりました。

活用法が見つからないまま、あれてしまふ空き家は日本中で問題になっていますが、シバハラはこの場所も、だれもが新しいものに触れて、創造力をふくらませられるような場所になりたいと考えています。

ぜひイベントにきて、食と交流を楽しみ
そして、みなさんのやってみたいこと、教えてください！

こども食堂 4日間開催

<p>24日 (土)</p> <p>鹿大生による ものづくり体験 ナチュラルな 木の時計をつくろう</p>	<p>25日 (日)</p> <p>鹿児島大学吹奏楽団 金管五重奏</p>	<p>26日 (月)</p> <p>鹿児島大学 芸術同好会 パフォーマンス</p>	<p>27日 (火)</p> <p>鹿児島大学吹奏楽団 クラリネット七重奏</p>
--	--	--	--

こども食堂特別企画！
とある社員食堂で大人気な
店長特製キーマカレー

2019年8月24日(土)～27日(火)

鹿児島大学生・まちかどカフェシバハラ共催

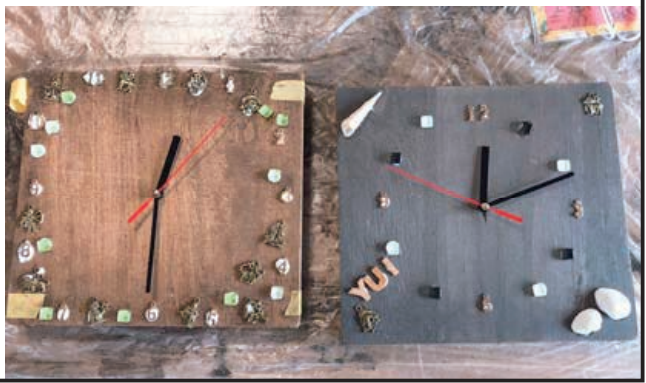
わくわくイベントカフェ

こども食堂



ものづくり体験

木の時計作り
ワークショップ



鹿児島大学学友会吹奏楽団

金管五重奏
クラリネット七重奏



鹿児島大学奇術同好会

マジック&ジャグリング パフォーマンス



4日間のイベントカフェを終えて

- ・ たくさんの方に感謝の言葉をいただいた
- ・ 地域の方々が積極的に取り組んでくださった
- ・ 空き家でも地域の憩いの場となる
- ・ 地域に元気を与えられる

- ・ 地域の方々の交流が以前よりも増えた
- ・ 自主的に何かしようとする動きがみられた

イベントカフェ開催後に実施された取り組み

- ・ こども食堂
- ・ 赤ちゃんヨガ
- ・ 不登校の子のための一時預かり施設
- ・ PTA研修
- ・ 消防団忘年会
- ・ ダンスパーティー



令和元年度鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム

「地方創生活動部門」成果報告書



(5)

プログラム名：夏休み自由研究お助け隊！～ウミガメと吹上浜のなかまたち～
グループ名：鹿児島大学ウミガメ研究会

【概要・目的】

本プログラムでは、夏休みの期間に小学校高学年を対象とし、当団体が夏休みの自由研究をサポートするイベントの企画、運営を行う。当団体はテーマの設定から、ウミガメや海について学ぶフィールド調査、課題のまとめまでのアドバイスを行う。企画の進行にあたっては参加者の自主性を尊重し、あくまでも当団体はサポートに徹する。この企画の最大の特徴は、ただ単に課題を進めるのではなく、ウミガメをはじめとした自然の要素を実際に目で見て体験する機会を提供できるという点にある。企画を進めるにあたって、長年にわたって子供向けのイベントを行っている、いおワールドかごしま水族館などの外部団体と協力を依頼する。

【活動内容】

イベントは三日間に分けて開催することにした。各日程の活動内容は以下の通りである。

一日目には、小学生が午前中に吹上浜でウミガメについて勉強するとともに、ビンゴゲームを通じて他の生き物についても学ぶ。午後はいおワールドかごしま水族館での活動となる。水族館では、まず生き物についての知識定着を図るために、当団体と担当者と協力して食物連鎖の話からウミガメの習性についてまで、幅広い講演をする。そして、実際に水族館で飼育されている子ガメに触れあい、スケッチをしながら観察する。最後に1日で得た情報をまとめる時間を取る。

二日目は、午前中は吹上浜で実際にウミガメの産卵巣を部員が掘り、その産卵巣から出てきた卵や、孵化した子ガメを小学生と観察する。そして吹上中央公民館へ移動し、昼休憩の後午前中に浜で何を見たか、感じたか、もしくは午前中で一番心に残ったことなどを発表し、子供たち同士で情報の共有を行う。そして、再度吹上浜に戻り、部員と一緒にエリア外に出て、ウミガメの足跡を探しつつ、各々の研究テーマについて探求する。

三日目は、大学の一室を使って、自由研究の作成に取り掛かった。無事に参加者全員時間内に自由研究を完成させることができた。

【効果・成果】

期待される効果の1つに参加する小学生の環境問題への関心の向上が挙げられる。産卵シーズンには実際に数多くのウミガメが上陸し、産卵する吹上浜の実際の様子を見ることで環境の実情を五感で感じることができる。その体験をもとに疑問を持ち、主体的に調査を行うことによって生態系の現状と問題点を詳しく知ることができ、さらに他の分野においても興味、関心を持って環境問題に向き合う人材を育成することにつながると考えられる。そして本企画の間接的な効果として、完成した自由研究をみた小学生やその家族にも強い影響を与えることが期待される。ウミガメ類は県の条約によって保護されている生物種であり調査研究を気軽に行うことは難しい。しかし、専門的な知識、技能を有する当団体が指導、サポートを行うことで普段は達成できないような成果を挙げることが期待でき、その結果が周囲にも強い印象を与えることが期待される。そういったところから、本人のみならず周囲の人々にも環境問題に対する問題意識を持つきっかけを創出できることが期待される。

【今後の計画、展望等】

このイベントを知ったとある小学校の教頭先生より、小学校で授業をしてほしいという依頼が来た。よって、これからは直接小学校へ出向き授業を通して子供たちの環境問題への関心の向上、ウミガメの認知度の向上につなげていきたい。

2020, 2, 27

鹿児島大学ウミガメ研究会
夏休み自由研究お助け隊
～ウミガメと吹上浜のなかまたち～

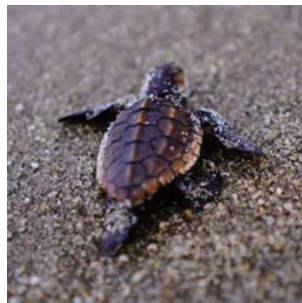


私たちウミガメ研究会について

日置市から委託されて吹上浜で
ウミガメの生態調査を行うサークル

研究成果は学会にて発表

設立から40年の歴史あるサークル



1

2019年度ウミガメ類の甲長・甲幅と
足跡幅の関係性に関する研究

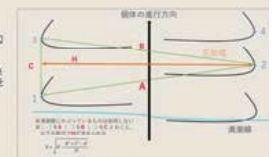
田島豊大・浜崎菜弥子・岡本寛志郎・福田将大
(鹿児島大学ウミガメ研究会)

研究の目的

我々は自然界におけるウミガメ類の生態調査で、採られた痕跡から個体の情報を得る手法を開発している。具体的には足跡幅と甲長・甲幅(SCL, MCL, SCL)との相関関係を分析し、足跡幅から個体の大まかなサイズを推定する方法を確立している。昨年度はデータの取らば取り大きく、測定者による足跡幅の計測方法の差が原因の行つておると考えられた。よって本年度は足跡幅を正確に計測するための測定法を用いて、精度の向上を目指し、改めて足跡幅と甲長・甲幅の相関性を検証した。

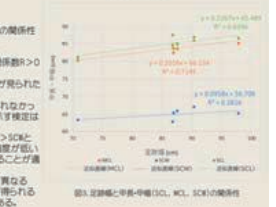
測定方法

1. マーカー4点を、足跡の頭に直線線から6本立てる。
2. 線の先端から三角形を作り、3辺を測定する。
3. 2をマーカー6まで繰り返す。
4. 得られた3辺から三角形の高さ(図1上のC)を求め、この平均を足跡幅と定義する。



結果と考察

- 足跡幅と甲長・甲幅(SCL, MCL, SCL)の相関性を図1に示す。
- 測定した個体はアカウミガメである。
- MCL, SCL, SCLすべてにおいて、相関係数 $R > 0$ となった。
- いくつかのデータに測らなエラーが見られたため、それを除外して算出した。
- 本年度も測定に十分な標本数が得られなかったため、得られたデータの有用性を示す検定は行わなかった。
- 昨年と同様、相関の強さは $MCL > SCL > SCL$ となった。現行の調査ではSCLの測定精度が悪いが、MCL, SCLから相関性を検証することが適切であると考えられる。
- SCL, MCLが類似していても足跡幅が異なるデータが存在した。こうしたデータが得られる原因をさらに調査していく必要がある。



イベントを立ち上げたきっかけ

鹿児島市役所、かごしま県民交流センターにて**写真展を開催**

地元の皆さんにウミガメの知識を広めることを目的

多数メディアに取り上げられ
来場者数は700人以上に

その中で一つの課題を感じた



3

イベントを立ち上げたきっかけ



鹿児島県が**日本で一番の**
ウミガメの産卵地であることを
知らない人が多い

三つの理由

- ・ 親世代もこの事実を知らない
- ・ 学校でウミガメのことを学ばない
- ・ ウミガメを見られる場所が少ない

➡ 何かきっかけが必要

対象

小学生

目的

ウミガメを知るきっかけを作る

できるだけ主体的に学べるイベント

➡ 自由研究イベント

イベントの概要

- 小学校の5, 6年生を対象とし、参加者は公募
様々なメディアを通して告知を行なった
- イベントは3日間、LINE@で常に保護者に連絡
- 当団体はテーマの設定から、ウミガメや海について学ぶ
フィールド調査、課題のまとめまでのアドバイスを行う
→自主性を尊重
- いおワールドかごしま水族館と協力
- 日本財団 海と日本プロジェクトin 鹿児島島のイベントとして認定

自由研究作成のお手伝いをします！

夏休み
自由研究お助け隊！
～ウミガメと吹上浜のなかまたち～

8/11(日), 17(土), 18(日)

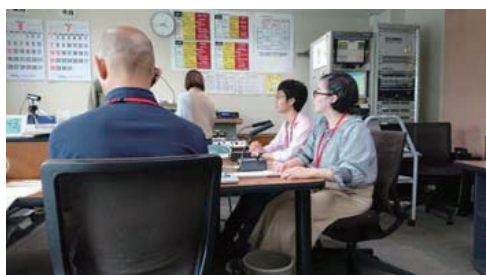
場 所 吹上浜, いおワールドかごしま水族館等
参 加 費 1000円(保険代含む)
募集人数 15人(応募多数の場合は抽選)
申込期間 7月5日(金)～7月22日(月)
抽選結果 7月23日(火)

詳しくはコチラ

主 催 鹿児島大学ウミガメ研究会 代 表 宮島(080-5245-6633)
協 賛 いおワールドかごしま水族館 協 力 日本財団 海と日本プロジェクトin 鹿児島島

イベントの概要

参加者公募のために
テレビ局2社、新聞社2社、ラジオ局2社、
イベント情報まとめサイト、
Facebook広告にて宣伝



告知期間は
2週間

12名の応募！

イベントの概要

活動の進捗状況は
LINE@を用いて
逐一保護者に連絡



夏休み自由研究お助け隊 実行委員会
友だち数 15



保護者様各位

夏休み自由研究お助け隊 1日目(8/11 実施)報告書

先日は、暑い中並びに早朝からのご参加ありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、自由研究お助け隊 1日目は滞りなく終えることができました。改めてお礼申し上げます。

さて、この度は 1日目の午後の後半のご報告及び感想に関するお問い合わせが来てご迷惑おそれました。お忙しいところ申し訳ありませんが、一度目を通して頂くようよろしくお願い致します。

1. 1日目(8/11 実施)午後の部のご報告

1日目の午後は、おワールドがごしま水族館にて生き物の違いに関する理解を深めるためのワークを行いました。この時、特別講師としてごしま水族館展示課の柏木様をお呼びして講演をお願い致しました。活動内容の詳細は以下の通りです。

- 12:35 集合の後、レクチャールームに移動。
お部屋に分かれてお昼ご飯(お弁当)を食べます。
- 13:00 ココロ日【開学】
・午後の開学式。
・おにごとにアイスブレイク。
・おにごとはクイズ形式で行いました。
・クイズの成績発表を見てワークシートにまとめる。
・実際にアカウミガメ、日本イシガメ、ロシアタガメの3種のガメを観望して違いを見分ける。
・撮影して発見したことをワークシートにまとめる。
- 14:00 休憩
- 14:10 ココロ日【海の生き物探し】
おにごとにまもって動物を探し、魚以外の生き物をスケッチ。
- 15:00 ココロ日【まとめ】
・レクチャールームに戻り、スケッチした生き物に色塗り。
・完成した生き物の絵を海のポスターに貼り、海の生き物マップをみんなで作ります。
- 15:30 朝顔の説明及び写真撮影
- 16:00 解散

イベントの概要 -1日目-

1日目の午前は吹上浜にて親子で海の情報集め

Name

BINGOS 見つけたら右上をチェックしよう!
チェックできたやつはワークシートにも記入してシールをもらおう!

1. 外国のペットボトルを探してみよう!	2. 穴の開いている貝を探してみよう!	3. ウミガメの卵を触ってみよう!
4. カニの足跡を探してみよう!	5. イカの甲を探してみよう!	6. 黄色、青、赤のゴミをそれぞれ見つけてみよう!
7. タコノマクラを探してみよう!	8. 波打ち際で砂のウネウネを見つけてみよう!	9. 満潮線を見つけてみよう!



イベントの概要 -1日目-

1日目の午前は吹上浜にて親子で海の情報集め



軍手と靴下を重ねて
ウミガメの足を再現して
穴掘りの体験

なかなかほれず
実際にウミガメの苦労を体験

イベントの概要 -1日目-

1日目の午後は水族館にてウミガメの勉強

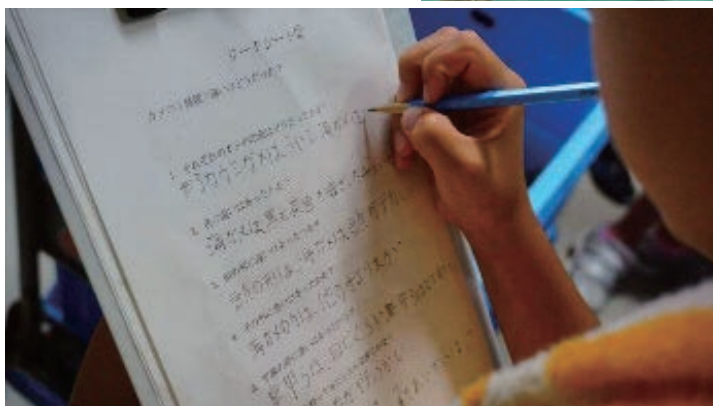
まずは班ごとにすごろくをして参加者同士の交流を図った



イベントの概要 -1日目-

1日目の午後は水族館にてウミガメの勉強

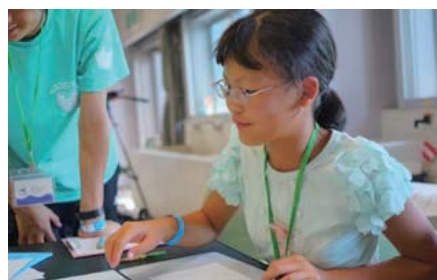
ウミガメ、イシガメ、リクガメを比べて違いを学ぶ



イベントの概要 -1日目-

1日目の午後は水族館にてウミガメの勉強

館内を周り様々な生き物のスケッチを行い
その絵を海の画用紙に貼り、海の多様性を学ぶ



1 日目の午後は水族館にてウミガメの勉強

水族館飼育員による講演

海にはいろんな環境があること、生態系のバランスを学び、ウミガメを始め生き物を取り巻く環境について理解を深めた



2 日目までの宿題

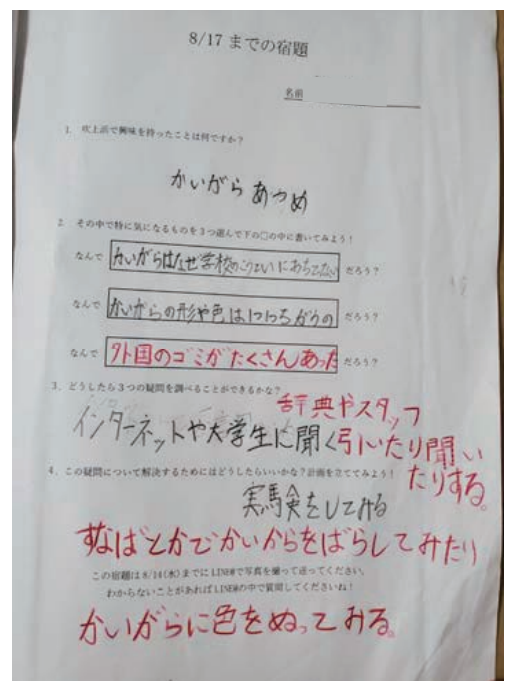
自宅で興味のあるテーマを選択

水族館と協力して宿題を作成

→子供たち自らテーマを決定

多かったテーマ

- ウミガメ
- ゴミ、漂着物
- 貝



イベントの概要 -2日目-

2日目は各自テーマの探究

前日の宿題を元にウミガメ班、漂着物班に分けて
自由研究のテーマを決定、探究



イベントの概要 -2日目-

2日目は各自テーマの探究

熱中症対策として昼間は公民館での活動
各々のテーマの共有、交流を行なった
午後の探究活動の合間には潮溜りで遊ぶなど自然体験活動も行った



3日目は自由研究作成、報告会

子供達一人につき部員一人がつきっきりでサポート

一人ひとりに合ったまとめ方で自由研究を作成し、保護者の前で報告



自由研究は参加者全員完成
イベント後テレビで放送、
新聞に掲載された





イベントを終えて

当初の目的である、
ウミガメを知るきっかけ作りは
無事達成できた



イベント記事を見て当団体を知った
小学校より出前授業の依頼をいただいた
→今後も啓蒙活動を継続していきたい

ご清聴ありがとうございました！



2019年度 進取の精神 チャレンジプログラム募集

「進取の精神チャレンジプログラム」とは、鹿児島大学学生憲章の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施するプログラムを鹿児島大学が支援するものです。

皆さんが現在取り組んでいる活動や興味・関心のあることを切り口に、プログラムを企画してみませんか？

・募集企画 (支援予定額 1件につき上限20万円)

一般部門	地方創生活動部門
募集テーマ：チャレンジ！鹿児島大学	募集テーマ：まち・ひと・しごと創生
【大学の活性化】 (例) 学内の環境改善(美化)活動 学内資源の利用促進活動 大学情報の発信 障がい学生の支援 大学グッズの開発 etc 【国際交流】 (例) 留学生との共同研究活動 etc	【鹿児島県内自治体の地域課題】 (例) 魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言 商店街の賑わい創出への支援 etc 【鹿児島県内企業等の課題】 (例) 製品の販売戦略の提言 etc Let's challenge!

・募集期間 5月7日(火)～ 5月31日(金)

・説明会 5月7日(火) 17:00～ 学習交流プラザ2階 学習交流ホール

応募資格：本学の学部学生及び大学院生で3人以上のグループ

また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能

応募方法：応募書類(企画書・必要経費内訳書)を学生生活課学生企画係(一般部門)又は社会連携課産学・地域連携係(地方創生活動部門)へ提出

審査方法：書類審査及びプレゼンテーション

詳しくは、募集要項をご覧ください。

大学HP「鹿児島大学－在学生の皆さま－インフォメーション」に掲載

問い合わせ先

<一般部門> 学生生活課学生企画係(共通教育棟1号館1階) TEL285-7320

<地方創生活動部門> 社会連携課産学・地域連携係(南九州・南西諸島域共創機構棟1 2階) TEL285-7104



2019年度「鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム」募集要項

1. 進取の精神チャレンジプログラムとは

本プログラムは、鹿児島大学学生憲章（平成22年11月15日制定）の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々な活動の支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって鹿児島大学（以下「本学」という。）における進取の精神の継承・発展を目的としています。

地域貢献を標榜する大学として、学生の皆さんにも鹿児島県内自治体や企業などと連携した地域貢献活動を展開していただきたいと考え、平成28年度からは本プログラムに「地方創生活動部門」を追加しました。

まずは、皆さんが現在取り組んでいる活動や興味・関心のあることを切り口に企画し、本プログラムに応募してみませんか。意欲とアイデアさえあればOKです。採択されたプログラムには予算の範囲内で支援します。ぜひ、この機会にチャレンジしてみてください。

2. 募集企画

〈一般部門〉

募集テーマ	内 容
チャレンジ！鹿児島大学	【大学の活性化】 (例) ・学内の環境改善（美化）活動 ・学内資源の利用促進活動 ・大学情報の発信 ・障がい学生の支援 ・大学グッズの開発 など 【国際交流】 (例) ・留学生との共同研究活動 など

〈地方創生活動部門〉

募集テーマ	内 容
まち・ひと・しごと創生	【鹿児島県内自治体の地域課題】 (例) ・魅力ある観光資源の発掘とPR戦略の提言 ・商店街の賑わい創出への支援 など 【鹿児島県内企業等の課題】 (例) ・製品の販売戦略の提言 など

※採択件数は、「一般部門」5件程度、「地方創生活動部門」5件程度を予定しています。

（参考）採択プログラム一覧

平成29年度

〈一般部門〉

- ・鹿児島からエコバックでフィリピン・ミンダナオ島を救う！！
- ・鹿児島大学宇宙開発プロジェクト2
- ・NHK学生ロボコン出場に向けた駆動機構の研究・開発
- ・TSUNAGUツアーで鹿大生に新しい学びの風をおこそう！！
- ・地域の特色を活かしたインフラ整備に関する学生シンポジウムin鹿児島
- ・うたって、ねむって、ムシ歯ちりょう～全身麻酔下歯科治療の認知度と治療環境の向上を目指して～

〈地方創生活動部門〉

- ・かごんまよかとこプロジェクト
- ・西出水！なこよかひとつとべ応援隊（略称：西出水応援隊）（仮）
- ・八重山高原星物語2017
- ・ベル活（ベルマークにすればトナーカットリッジを離島教育教材にできる説）
- ・留学生＋日本人学生による種子島のInbound活性化および地域資源発掘調査

平成30年度

〈一般部門〉

- ・ハイブリッドロケットの開発
- ・鹿児島在住外国人への歯科検診ボランティアプロジェクト
- ・ARによる建築模型の共有とプレゼンテーション
- ・深度センサー付きカメラを用いたロボットの自己位置推定システムの開発
- ・TSUNAGUツアーで自分を知る旅に出かけよう
- ・ウミガメ保全調査活動への関心を高めるための写真展

〈地方創生活動部門〉

- ・WEBの力で地域・学生・大学をつなぐ！
- ・八重山高原星物語2018
- ・未来を繋げ！鹿児島大学医療系学生発『こどもむりょう塾』
- ・キャッサバを活用した徳之島の地域住民と学生による地域活性化プログラム

3. 応募資格・条件等

■応募資格

本学の学部学生及び大学院生で、3名以上のグループとします。
また、学生が主体であれば教職員と連携して応募することも可能です。

■応募条件

- ①卒業論文、卒業研究で取り組む内容のものは含みません。
- ②実施期間内に終了できる単年度企画とします。ただし、複数年を要する企画の継続申請も可能とします（継続理由を明記すること）が、次年度予算を確約するものではありません。
- ③「地方創生活動部門」については、課題解決に向け、自治体等と協働して活動する企画とします。
- ④物品、施設等については、貸与（借用）を原則とします。（次項を参照）

■貸与可能物品（備品）の取扱い

貸与可能物品（備品）は、ノートパソコン(5台)、ビデオカメラ(5台)、デジタルカメラ(4台)、カメラ用三脚(4脚)、レーザーポインター(1個)、浴衣(10枚)。

大学の貸与物品以外の備品を購入した場合は、プログラム終了後速やかに大学に返却していただきます。

※備品とは、耐用年数が1年以上で、かつ、取得価額が概ね1万円以上の物品とします。

■支援予定額

1件につき上限20万円

■購入できないもの

上記の貸与可能物品（備品）、トロフィー、楯、金券・図書券等換金性の高いもの、お土産代、謝礼金、謝礼品、飲食代、使い切りとならない回数券、自家用車のガソリン

4. 応募方法

所定の様式による企画書及び必要経費内訳書に必要事項を記入の上、5月7日（火）から5月31日（金）17時までに、〈一般部門〉については学生生活課、〈地方創生活動部門〉については社会連携課に紙媒体とデータで提出してください（様式は本学ホームページからダウンロード可）。

5. 審査方法

- ①審査委員会を組織し、書類審査及びプレゼンテーションによる審査を行います。
- ②審査結果は、企画書に記載のメールアドレスに通知します。

6. 成果発表

本プログラムの成果は、別途成果発表会において報告し、優秀なプログラムは「表彰」を行います。

7. スケジュール(2019年度)

- | | |
|------------|--------------------|
| ◆応募受付期間 | 5月7日(火) ～ 5月31日(金) |
| ◆審査期間 | 6月3日(月) ～ 6月27日(木) |
| ◆結果発表 | 6月下旬 |
| ◆プログラム実施期間 | 採択後 ～ 1月末日 |
| ◆成果発表会 | 2月下旬予定 |

8. 問い合わせ先

〈一般部門〉 学生部学生生活課学生企画係（共通教育棟1号館 1階）
主任 玉利 TEL099-285-7320

〈地方創生活動部門〉 研究推進部社会連携課産学・地域連携係（南九州・南西諸島域共創機構棟1 2階）
専門職員 鮫島 TEL099-285-7104

○鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム実施要項

平成25年2月19日

学長裁定

(目的)

第1 この要項は、鹿児島大学学生憲章(平成22年11月15日制定)の趣旨に則り、学生自らが企画・運営・実施する様々なプログラムの支援を通じて困難な課題に果敢に挑戦し、実践することによって鹿児島大学(以下「本学」という。)における進取の精神を継承していくことを目的とする。

(名称)

第2 この要項において支援するプログラムは、鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム(以下「進取の精神CP」という。)と称する。

(応募資格)

第3 進取の精神CPに応募できる学生は、本学学部学生及び大学院学生(外国人留学生を含む。)で3名以上のグループとする。

2 前項のほか、学生が主体であれば教職員と連携して応募することを妨げない。

(応募条件)

第4 応募の条件は、実施期間内に終了する単年度の企画を原則とする。ただし、複数年を要する企画については継続申請を認めることがある。

2 卒業論文、卒業研究、正課等で取り組む内容の企画は不可とする。

(募集内容等)

第5 進取の精神CPで募集するテーマは原則として次のとおりとする。

(1) 一般部門

(2) 地方創生活動部門

2 募集内容、応募方法等は、別に定める募集要項による。

(審査委員会)

第6 一般部門の審査委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) 副学長及び学長補佐のうちから学長が指名する者

(2) 共通教育センター長

(3) 学生部長

(4) その他委員長が必要と認めた者

2 地方創生活動部門の審査委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) 副学長及び学長補佐のうちから学長が指名する者

(2) 産学・地域共創センター長

(3) 研究推進部長

(4) その他委員長が必要と認めた者

3 審査委員会に委員長を置き、学長が指名する者をもって充てる。

- 4 委員長は、審査委員会を招集し、その議長となる。
- 5 審査委員会は、応募プログラムについて、書類審査、プレゼンテーション等の方法により選考を行う。
(採択者の決定等)
- 第7 学長は、第6の審査委員会の選考を経て、予算の範囲内で採択プログラムを決定するものとする。
(成果発表)
- 第8 進取の精神CPに採択された者は、事業終了後にその成果を発表しなければならない。
(採択の取消し)
- 第9 学長は、採択された者が次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、審査委員会の議を経て、採択を取り消すことができる。
- (1) 企画内容と実施事業の内容が著しく異なったとき。
 - (2) 虚偽の申請その他不正な手段により採択されたとき。
 - (3) 本学の規則等に違反し、採択された者としての適格を欠くに至ったとき。
- (事務)
- 第10 進取の精神CPに関する事務は、学生部学生生活課及び研究推進部社会連携課において処理する。
(雑則)
- 第11 この要項に定めるもののほか、進取の精神CPに関し必要な事項は、別に定める。
- 附 則
この要項は、平成25年2月19日から実施する。
- 附 則
この要項は、平成26年6月3日から実施する。
- 附 則
この要項は、平成28年6月3日から実施し、平成28年4月1日から適用する。
- 附 則
この要項は、平成29年4月1日から実施する。
- 附 則
この要項は、平成30年4月1日から実施する。
- 附 則
この要項は、平成31年4月1日から実施する。

○国立大学法人鹿児島大学における鹿大「進取の精神」支援基金規則

平成27年3月20日

規則第59号

(設置)

第1条 国立大学法人鹿児島大学(以下「本法人」という。))に、寄附金を原資とする鹿大「進取の精神」支援基金(以下「鹿大基金」という。)を置く。

(目的)

第2条 鹿大基金は、鹿児島大学(以下「本学」という。))が地域活性化の中核的拠点の構築を目指し、また世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に必要な支援を行い、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ことを目的とする。

(事業)

第3条 鹿大基金は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業の用に供するものとする。

- (1) 学生支援に関する事業
- (2) 留学生支援に関する事業
- (3) 国際交流に関する事業
- (4) 研究支援に関する事業
- (5) 社会連携に関する事業
- (6) 産学官連携に関する事業
- (7) その他この基金の目的達成に必要な事業

(構成)

第4条 鹿大基金は、寄附金及びその運用による果実をもって構成する。

2 鹿大基金を、一般資金と特定資金に区分する。

(一般資金)

第5条 寄附者から特に事業を定められていない寄附金及び次条の特定資金に該当しない寄附金については、一般資金とする。

(特定資金)

第6条 寄附者から特に事業を定められた寄附金で、他の寄附金と区分して管理運営すべきものについては、特定資金とする。

2 特定資金は、次の各号のとおりとする。

- (1) 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金から承継した寄附金
- (2) その他特に事業を定められて寄附された寄附金

(謝意)

第7条 本法人は、鹿大基金への寄附者に対して謝意を表明する。

(事業年度)

第8条 鹿大基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(運営会議)

第9条 鹿大基金の管理運営に関する事項を審議するため、鹿大「進取の精神」支援基金運営会議(以下「基金運営会議」という。)を置く。

2 基金運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

3 前2項の規定にかかわらず、第6条第2項第2号に定める特定資金として、学部、研究科等に設置する基金(以下「学部等支援基金」という。)の管理運営に関する事項を審議する機関に関し必要な事項は、別に定める。

(運営費)

第10条 鹿大基金の運営に必要な経費については、鹿大基金をもって充てる。

2 前項の経費については、毎年度、その予算及び決算について基金運営会議の審議を経るものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、学部等支援基金の運営に必要な経費に関し必要な事項は、別に定める。

(寄附金の受入れ)

第11条 鹿大基金は、この規則及びこの規則に基づく定めによる場合を除いて、国立大学法人鹿児島大学寄附金等受入規則(平成16年規則第85号)により寄附金の受入れを行うものとする。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、鹿大基金に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際に、現に存する次の各号の寄附金等については、鹿大基金へ平成27年4月1日に承継する。
 - (1) 国立大学法人鹿児島大学学生支援寄附金は、一般資金とする。
 - (2) 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金は、特定資金とする。
- 3 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金規則(平成25年規則第22号)は、廃止する。
- 4 国立大学法人鹿児島大学教育研究活動等支援基金から承継した寄附金(以下「支援基金」という。)の取扱いは、次の各号のとおりとする。
 - (1) 支援基金は、財団法人鹿児島大学援助会(以下「援助会」という。)の解散に伴い寄附された寄附金(現金及び有価証券をいう。)で、援助会の目的(本学における教育活動、研究活動、施設の拡充及び福利厚生に必要な援助を行う。)を継承し、「自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する」ために必要な支援を行い、もって教育及び文化の発展に寄与するものとする。
 - (2) 支援基金は、基本資金及び事業資金により構成する。
 - (3) 基本資金は、援助会から支援基金の運用財産として寄附された寄附金(現金及び有価証券)をもって充て、取崩しは行わない。ただし、必要と認められる場合には、第9条に定める運営会議の議を経て、取り崩すことができるものとする。
 - (4) 事業資金は、援助会から事業の運営資金として寄附された現金及び基本資金から生ずる運用果実をもって充てる。
 - (5) 事業資金のうち資金運用していない現金は、第3条に定める事業を行うため鹿大基金の一般資金に繰り入れるものとする。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年7月30日から施行する。

鹿児島大学 学生憲章



私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成 22 年 11 月 15 日制定
(第 61 回鹿児島大学開学記念日)

令和元年度 鹿児島大学進取の精神チャレンジプログラム
地方創生活動部門 成果報告書

発行日 令和2年3月

発行元 鹿児島大学 産学・地域共創センター

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

TEL : 099-285-7104 FAX : 099-285-8495

E-mail : screnkei@kuas.kagoshima-u.ac.jp

<https://www.krcc.kagoshima-u.ac.jp/>
